

平成 20 年度事業報告

自 平成 20 年 4 月 1 日～至 平成 21 年 3 月 31 日

会長・理事 宮原 秀夫

次期会長・理事	青山友紀	理事	田中良明	理事	間瀬憲一
副会長・理事	津田俊隆	理事	西原明法	理事	河内正夫
副会長・理事	伊藤弘昌	理事	大村佳久	理事	畑岡信夫
副会長・理事	広崎膨太郎	理事	花澤隆	理事	香田徹
副会長・理事	吉田進	理事	山田敬嗣	理事	澤谷邦男
理事	坂庭好一	理事	酒井善則	理事	益一哉
理事	村田正幸	理事	持田侑宏	理事	大田友一
理事	高橋達郎	理事	羽鳥光俊	監事	平田康夫
理事	秋葉重幸	理事	小林欣吾	監事	正村達郎
理事	山本浩治				

事業概況

平成 20 年度は、昨年度決定した本部とソサイエティの新たな会費配分法など、新しい内部会計についての試行を行い、本部もソサイエティ相当の会計単位とみなす、本格的ソサイエティ独立採算化を推し進め、健全な財政基盤を維持する取組みを実施した。また、学会共通の課題に対処するため企画室に新たな検討 WG を発足させ、以下の取組みを実施した。

(新法人法への取組み) 「まずは非営利型一般社団法人として申請する」の方針を理事会で決定し、新法人法に沿った定款の変更案、新会計基準に基づいた決算書の作成作業を本格化した。

(倫理綱領、定款自治体制の確立) 本会の倫理綱領を更に拡充した技術者倫理綱領の改定、及び本会の使命・理念、情報セキュリティ、内部統制の検討など、新法人法の考え方に沿った定款に基づく、セルフガバナンス体制の検討を開始した。

(Web システムの再構築) ホームページの充実、役員選挙時の電子投票機能の整備など総合的に Web システムを見直す検討を開始した。シングルサインオンの導入による会員サービスの向上など Web システムのサービス、サーバの構成の両面から統一プラットフォーム構築の検討を行う。

その他の本部活動として、シニア会員制度の実施、マイページの機能拡充などの会員サービスの向上、並びに教育活動の展開に継続して取り組み、ソサイエティ活動では、オンライン論文誌の機関誌化を図書館等へのサイトライセンスの実施を含めて実施し、独立採算化に向けた活動を強化した。以下に項目別に実施の概要を記す。

(○は平成 20 年度に新規に取り組むか、顕著な変化があったもの、・は継続的なものを示す。)

(1) 会員サービスの向上に関して：

○オンラインジャーナルは、平成 18 年 4 月から個人会員に対して和英オンラインジャーナルを機関誌として配信するサービスに切り替えた。この関連で残された課題であった図書館等のサイトライセンス化について、図書館コンソーシアム等からの要望も反映させた料金体系を定

め、平成 21 年 4 月から実施することとした。具体的には、利用規模に応じた 5 ランクの料金とし、かつ、最初の 3 年間は試行期間と位置付け、ワンランク下げた料金を適用した。3 年後には、利用実績データに基づいて適用ランクを見直す予定である。

- 次期総合版ハンドブックについては、準備会でデータベース化したハンドブック(知識ベース)の構築に対して群編構成、編主任を固め、執筆中である。当初、会員サービスの視点から、会員向けのオンラインハンドブックの方針であったが、本会の社会的使命、執筆者のインセンティブなどを優先し、広く一般に無料公開することとした。
- 会員の定着及び会費収入の安定化を図るため平成 19 年度から会費を前納制に切り替えたが、これによって学生員から正員に移行する段階での退会者数が減少する効果が見られた。この効果が一過性であるかどうかの確認と更なる会員増強策の検討を継続的に行う。
- 選奨委員会において検討し、理事会、総会で承認を得たシニア会員制度について、ホームページ及び数回にわたる会誌会告欄を通じて会員への周知に努めるとともに Web による申請システムを構築した。結果として、300 名を超えるシニア会員の申請を受付、現在、各ソサイエティで審査中である。
- マイページの興味分野登録機能を改善し、研究会からの情報発信サービスを実施するとともに、シニア会員申請リンクなどの機能を拡充した。本人経歴(役職履歴、受賞履歴など)の掲載、各種申請など、更なる機能の充実を図り、会員サービスを向上する。
- 海外会員及び外国人会員に対するサービスとして「IEICE Global Plaza」のメールマガジン配信及び会誌掲載を開始した。
- 創刊号からの会誌を DVD に収め発行して 3 年が経過したため、直近 3 年間の内容を追加収録した DVD を発行した。
- 男女共同参画委員会は、昨年に続いて平成 21 年 3 月の総合大会会場に託児施設を開設して、女性会員が積極的に学会活動に参加できるように利便を図った。また、「男女共同参画学協会連絡会」の幹事学会としての活動を実施した。

- ・学生ランチへの参加校数の増大を中心に学生会の活動を推進した。

(2) 教育活動に関して：

本会の教育活動の充実を図り、その活動を束ねるために組織された「教育活動協議会」の下で、教育活動関係の4委員会(生涯教育委員会、アクレディテーション (Accreditation Policy Council) 委員会、CPD (Continuing Professional Development) 委員会、小中高生科学教室委員会)が活動を展開した。

- 先端オープン講座では、プロジェクトマネジメント、短期集中コースなど受講者のニーズに合致した講座を新設したことにより総受講者の増加だけでなく中高年受講者が増加した。
- ・JABEEの学部認定審査はほぼ軌道にのってきており、平成20年度は定常的な活動を行った。本会が主催するJABEE審査講習会を2回開催した。
- ・昨年度に引き続き、電気学会、情報処理学会と協力して「電気電子・情報系CPD協議会」を開催し、新しい会員サービス実現に向けて、平成18年11月から開始したCPD会員システムを試行運用し、平成21年4月からの本格実施に向けた準備を行った。
- 「小中高生科学教室委員会」の中で、青少年の科学離れを阻止するための「子供の科学教室」活動を支部と連携して活動範囲を拡大して実施した。平成20年度は開催回数22回、参加者合計は昨年度に比べ2倍近い1,534名となった。

(3) ソサイエティ関連活動に関して：

- 基礎・境界ソサイエティでは、新電子論文誌 Nonlinear Theory and its Applications, IEICE (略称 NOLTA) の発行に向けた検討を推進し、基本方針について理事会で承認された。
- 通信ソサイエティでは、技報電子化トライアルを10月から実施し、また、大会コンテンツをWeb閲覧できる「CSアーカイブス」を構築し、平成21年5月からサービスの開始予定である。
- ・エレクトロニクスソサイエティで平成16年4月に創刊したペーパーレスの電子ジャーナル (ELEX) は順調に成長、投稿数も大幅に増加し、平成20年度にはインパクトファクターが付与された。
- ・情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ関連では、「FIT (Forum on Information Technology) ; 情報科学技術フォーラム」を情報処理学会との合同で開催した。

(4) その他の事項：

- 平成16年度に発足した「電気・情報関連学会連絡協議会」では、新法人法に対する取組みを共通課題と位置付け、貴重な議論・情報共有を行った。
 - ・平成15年度に開始した電気・情報関連5学会連携による卓越データベース作成は、平成20年度から2期目として新たな科学研究費補助金に基づき、継続実施した。
 - ・論文誌の一層の質の向上を図るため、査読委員並びに編集委員を対象とした論文査読に関する説明会を総合大会の会場で開催した。
- 以下に各事業の実施状況を報告する。

I. 本 部 事 業

1. 出版に関する事項

1.1 会誌の発行状況 (定款 第6条イ)

全会員に共通の場として重要なメディアである会誌は、平成20年4月から21年3月まで12冊、合計395,000部(月平均32,916部)を発行配布した。

また、平成17年に発行した会誌DVD(創刊号から平成16年12月号までを収録)に更にその後3年分の会誌記事を追加収録した会誌DVD(第2版)を平成20年9月に発行した(個人用1,200枚、法人用100枚)。

平成20年度の会誌記事の内容・件数及びページ数は次のとおりである。

種 類	件数	ページ数	種 類	件数	ページ数
講 演	1	6	寄 書	0	0
4月小特集(イメージメディアの美しさを支える基盤技術)	7	35	回 想	1	4
5月特集(ネットワークロボット最前線)	13	86	学生/教養のページ	13	43
6月小特集(素数)	6	28	オピニオン	4	16
7月小特集(ユビキタスネットワーク技術開発プロジェクト)	5	42	ニュース解説	18	30
8月小特集(ブロードバンドサービスを支える光ファイバ技術と応用システム)	10	54	総合報告	1	25
9月小特集(大容量・広域・高品質な衛星通信技術)	6	26	ソサイエティのページ	2	4
10月特別小特集(自然災害からの復興の取組みと課題(信越支部))	8	28	情報ネット	1	4
10月小特集(情報通信ネットワークの設計・制御理論の新潮流―異分野からのアプローチ―)	7	33	―いま、学会では―		
11月特集(進化する先端フォトニックデバイス)	13	87	男女共同参画のページ	0	0
12月小特集(バリアフリー社会に向けた音声情報処理)	6	29	学生会報告	2	15
1月特別小特集(2030年の科学技術大予想)	10	25	支部だより	2	1
2月小特集(特定領域研究「新世代の計算限界―その解明と打破―」)	5	30	予定目次	12	0
3月小特集(防災・減災を支える情報通信技術)	10	57	学会ニュース	0	0
編集長退任にあたって	1	5	慶 賀	2	2
解説	35	212	追 悼 抄	4	4
講座	1	5	国際会議	46	9
			図書紹介	24	12
			国内文献目次		
			図書寄贈一覧		
			本会だより		
			編 集 室		
			役員等口絵		
			総会・選奨		
			フェロー口絵		
			会誌総目次		
			学会編集室		
			会 報	0	0
			計		1,094
			巻 頭 言		12
			目 次		36
			会 告		650
			論文誌目次		140
			合 計		1,932

*その他：広告(カラー、前付、後付等) 237ページ

1.2 広告賞について (定款 第6条チ)

平成20年広告賞として下記の2点を選定した。

【カラー広告部門】受賞作品：アンリツ株式会社
「可能性∞無限大」(5,12月号)

【一色刷り広告部門】メレズグリオ株式会社
「私たちが、CVI製品をお届けします」
(8,10,12月号)

1.3 ハンドブックについて (定款 第6条ト)

(第8次)ハンドブック/知識ベース委員会において次期総合版ハンドブック(知識ベース)を構築するための具体的な検討を継続した。これまで会員向けに公開することで進めてきたが、会員・非会員の区別なく広く一般公開することが社会的な貢献を果たすことになり、また、知識ベース執筆委

員からの強い要望もあるため、コンテンツを一般公開することとし、平成20年7月理事会で承認を得た。

また、目次案と執筆委員が確定した編から順次執筆を依頼し、知識ベースの公開ポータルサイトや継続的運営のためのビジネスモデルの検討を行った。

1.4 単行本（定款 第6条ト）

平成20年度は新刊1点1,000部、重版6点2,300部を発行した。

なお、平成16年度から刊行を開始したB5判単行本について、平成20年度は第5弾として「Webサービス時代の経営情報技術」を刊行した。

新刊書は次のとおりである。

新刊書名	判型	発行年月日	頁数	部数
Webサービス時代の経営情報技術	B5	H21.2.25	184	1,000

1.5 教科書「電子情報通信学会大学シリーズ」(全59巻) (定款 第6条ト) (コロナ社委託出版)

昭和55年8月以降既刊書目52点。平成20年度は重版12点を発行した。

1.6 教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」(全65巻) (定款 第6条ト) (コロナ社委託出版)

大学院及び学部の学生を対象とし、併せて一般勉学者の参考に供するための新シリーズの教科書として平成20年度は新刊4点、重版5点を発行した。

新刊書は次のとおりである。

新刊書名	発行年月日	頁数	部数
基礎電子物性工学 ——量子力学の基本と応用——	H20.5.7	154	1,000
数理計画法	H20.5.23	192	1,000
非線形理論	H21.3.18	208	800
モバイルコミュニケーション	H21.3.31	176	800

(平成14年3月第1回配本以降通算23点)

2. 会議に関する事項（定款 第6章）

2.1 第82回通常総会

平成20年5月27日(火)午後2時から機械振興会館において第82回通常総会を開催した。社員総数173名に対し、出席社員数135名(委任状を含む)で、定款第45条に定める社員総数の過半数の出席に達した。伊澤会長を議長として下記議案を付議して、いずれも原案どおり可決承認した。

平成19年度事業報告について

平成19年度収支決算報告について

平成20年度事業計画(案)について

平成20年度収支予算(案)について

2.2 理事会、評議員会

年度内に8回の理事会を開催し、うち3回を評議員会と合同で開催した。

2.3 支部長会議

平成21年3月18日(水)に開催し、各支部の活動報告、本部一支部間の意見交換を行った。

2.4 海外セッション代表者会議

国際委員会は海外セッション代表者8名が、各セッションにて講演会等を企画・実施することに協力するとともに、本会活動の周知・宣伝に努めた。また、第7回海外セッション代表者会議を総合大会期間中(愛媛大学)の3月19日に開

催し、バンコク、北京、韓国、上海、シンガポール、台北から代表者が出席し意見交換を行った。

各セッションにおいての講演会等の実施件数は次のとおりである。

セッション	件数	セッション	件数
バンコク	1	韓国 (Information)	1
北京	1	上海	2
韓国 (Communication)	1	シンガポール	1
韓国 (Electronics)	1	台北	1

3. 規格調査会に関する事項（定款 第6条ニ）

委員会議を4回、専門委員会及び小委員会を86回開催した。TC86の総会が平成20年10月に京都で開催された。国際標準化に関して取り扱ったIEC文書は960件であった。

委員会名		委員長名	委員数		開催数	
規格調査委員会		羽鳥 光俊	16		4	
	専門委員会名	専門委員長名	専門(委)	小(委)	専門(委)	小(委)
1	電子部品のデータ要素	堀内 一	0	22	0	5
2	通信用伝送線及びマイクロ波受動部品	小林 禰夫	11	42	2	14
3	周波数制御・選択デバイス	関根 好文	22	36	3	14
4	光ファイバ	川瀬 正明	20	65	4	19
5	デザインオートメーション	神戸 尚志	16	35	5	5
6	無線通信用送信装置	小川 博世	17	23	1	8
7	電子通信用語	吉村 久乗	24	0	0	0
8	電子通信記号		14	0	0	0
9	複雑システムの安全規格委員会	鈴木 喜久	10	0	6	0
合計			150	223	25	65
			373		90	

4. 選奨に関する事項

本年度の各選奨は所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり各受賞者を決定した。

4.1 功績賞（第70回）（定款 第6条ホ）

伊藤 泰彦 (KDDI)

河内 正夫 (NTT エレクトロニクステクノ)

小林 功郎 (東工大)

仙石 正和 (新潟大)

中沢 正隆 (東北大)

以上5名

4.2 業績賞（第46回）（定款 第6条ホ、ヘ）

選奨規程第9条イ項によるもの

(業績名五十音順)

業績	貢献者(所属)
DVDの開発およびその国際標準化推進	山田 尚志 (東芝)
移動体通信における適応的空間信号処理に関する先駆的研究	鈴木 博 (東工大) 府川 和彦 (東工大)
非拡大写像の不動点近似に基づく信号処理方式とその応用に関する先駆的研究	山田 功 (東工大)

以上3件

選奨規程第9条口項によるもの (業績名五十音順)

業 績	貢 献 者 (所 属)
CMOS LSI 低電力回路技術の先駆的開発と実用化	桜井 貴康 (東 大) 黒田 忠広 (慶 大) 道関 隆国 (立命館大)
広視野角・高速液晶ディスプレイモードの研究開発およびその高精細フルハイビジョン液晶ディスプレイへの応用	内田 龍男 (東北大)
広帯域スケーラブル音声符号化技術の開発およびITU-T 国際標準化への貢献	日和崎祐介 (NTT) 佐々木茂明 (NTT) 大室 伸 (NTT)

以上3件

4.3 論文賞 (第65回) (定款 第6条ホ, ヘ)

(分冊別掲載年月順)

A	論文名 著者名 掲載年月	拡張プライム系列符号の一般化とその特性について 松嶋智子 (能開大), 長尾 剛 (サンソウ システムズ), 落合昇 (茨城県立産業技術専門学院), 寺町康昌 (能開大) 平成20年5月 (A)
A	論文名 著者名 掲載年月	An Efficient Adaptive Minor Subspace Extraction Using Exact Nested Orthogonal Complement Structure 御園真樹・山田 功 (東工大) 平成20年8月 (EA)
A	論文名 著者名 掲載年月	POCS-Based Annotation Method Using Kernel PCA for Semantic Image Retrieval 小川貴弘・長谷山美紀 (北大) 平成20年8月 (EA)
B	論文名 著者名 掲載年月	Identifying Heavy-Hitter Flows from Sampled Flow Statistics 森 達哉 (NTT), 滝根 哲哉 (阪大), Jianping PAN (University of Victoria)・川原 亮一 (NTT), 内田真人 (九工大), 後藤滋樹 (早大) 平成19年11月 (EB)
B	論文名 著者名 掲載年月	誘電体に対するガラーキンモーメント法—一端部電荷を考慮した直方体モノポール間の自己・相互インピーダンスの単積分化— 陳 強, ザイ フィチン, 袁 巧微, 澤谷邦男 (東北大) 平成20年9月 (B)
B	論文名 著者名 掲載年月	次世代移動通信システム実現に向けた基地局・端末アンテナ技術 長 敬三・山口 良・蔣 惠玲 (NTT ドコモ) 平成20年9月 (B)
C	論文名 著者名 掲載年月	A 90nm 48x48 LUT-based FPGA Enhancing Speed and Yield Utilizing Within-Die Delay Variations 小林和淑・香月和也・小谷 学・杉原有理・久米洋平・小野寺秀俊 (京大) 平成19年10月 (EC)
C	論文名 著者名 掲載年月	KTa _{1-x} Nb ₂ O ₆ 結晶における空間電荷制御電気伝導と Kerr 効果による光偏向現象 中村孝一郎・宮津 純・佐々木雄三・今井欽之・笹浦正弘・藤浦和夫 (NTT) 平成19年12月 (C)
C	論文名 著者名 掲載年月	Highly Reliable Submicron InP-Based HBTs with over 300-GHz f_t 柏尾典秀・栗島賢二・深井佳乃・山幡章司 (NTT) 平成20年7月 (EC)
D	論文名 著者名 掲載年月	Prediction of Fault-Prone Software Modules Using a Generic Text Discriminator 水野 修・菊野 亨 (阪大) 平成20年4月 (ED)
D	論文名 著者名 掲載年月	筆順変動を表現するHMMとそのオンライン文字認識への応用 片山喜規・内田誠一・迫江博昭 (九大) 平成20年5月 (D)
D	論文名 著者名 掲載年月	低い時間解像度の運動指令がもたらす手先軌道の性質: 運動指令表現の単純化仮説 阪口 豊・和田克己 (電通大) 平成20年9月 (D)

(A), (B), (C), (D): 和文誌, (EA), (EB), (EC), (ED): 英文誌 所属: 掲載時の所属

以上12編

4.4 喜安善市賞 (第2回) (定款 第6条ホ, ヘ)

論文名	誘電体に対するガラーキンモーメント法—一端部電荷を考慮した直方体モノポール間の自己・相互インピーダンスの単積分化—
著者名	陳 強, ザイ フィチン, 袁 巧微, 澤谷邦男 (東北大)
掲載年月	平成20年9月 (B)

((B): 和文誌 所属: 掲載時の所属)
以上1件

4.5 学術奨励賞 (第71回) (定款 第6条ホ, ヘ)

[基礎・境界ソサイエティ]: 9名

(五十音順)

受賞者	所 属	題 名	大会別	講演番号
Yang Yang	Xi'an Jiaotong Univ.	Face Animation Framework for Facial Expression Synthesis	総合	A-2-8
石原 寛明	東芝	離散時間信号処理を用いた妨害波キャンセル回路の提案	総合	A-1-6
内川 浩典	東芝	検査ノードのLLRに着目した逐次更新型 min-sum 復号方式	総合	A-6-5
落岩 論	広島大	D-サイフォン縮小に基づくベトリネットの最小初期マーキング問題解法 AMDLO	ソサイエティ	A-12-1
小野寺 慶	北大	信号処理に用いられるユニタリ行列と対称群の関係	総合	A-4-35
金澤 尚史	阪大	利得の動的再配分のある2戦略レプリケータダイナミクスの分岐現象	総合	A-2-25
葛岡 成晃	和歌山大	On the Suboptimality of Linear Lossy Codes	総合	A-6-9
橋本 亮司	阪大	H.264 CABAC 復号器の高速化に関する一検討	ソサイエティ	A-20-9
室田 勇輝	阪大	多期間における分散EMSの最適運転計画問題	総合	A-12-8

[通信ソサイエティ]: 36名

受賞者	所 属	題 名	大会別	講演番号
Lu Zhenxing	早大	Sensitivity of Entropy-based Analysis to Detect Infected Hosts	総合	BS-3-3
石原 浩一	NTT	上りリンクマルチユーザ MIMO 信号検出に適したウェイト推定法	総合	B-1-230
		高速光伝送におけるシングルキャリア周波数領域等化技術	ソサイエティ	B-10-36
井上 祐樹	NTT ドコモ	屋内オフィス環境におけるエリア自動成形法の検討	総合	B-1-238
今泉 英明	東大	AS 境界を考慮した光パケット用ヘッダ方式	総合	B-12-10
		テラビット級 LAN におけるハイブリッド型光ネットワークアーキテクチャ	ソサイエティ	BS-9-4
今村 勝徳	古河電工	Restrict Mode Excitation 法による端局 DCF フリー海底 NZ-DSF 伝送路	総合	B-10-25
		超大容量伝送用マルチコアホーリーファイバに関する検討	ソサイエティ	B-13-22
上村 郷志	KDDI 研	FMC 環境における網区間毎の QoS/QoE 推定方式に関する考察	総合	B-6-14
		整理券発行機能を用いたアクセス制御システムの提案	ソサイエティ	B-7-43
恵木 則次	NTT	IPTV におけるインサービスオーディオ品質評価モデルの提案	総合	B-11-14
		IPTV サービスにおけるインサービスオーディオ品質評価モデルの有効性検証	ソサイエティ	B-11-2
太田 喜元	ソフトバンクテレコム	屋外・NLOS 環境下における端末静止・周辺移動時の伝搬変動特性	総合	B-1-49
		LOS 環境における伝搬遅延プロファイルモデル	ソサイエティ	B-1-15
大山 竜也	古河電工	0.9mm 心線を使用したインドアケーブルの開発	総合	B-10-26

川島 佑毅	三菱電機	TDMA アドホックネットワークにおけるノード参入手法の検討	ソサイエティ	B-7-52
楠本 学	NEC	FFT を用いた超広帯域の振幅確率分布測定	ソサイエティ	B-4-18
栗田 明	三菱電機	DCT を用いたタイミング再生方式の広帯域 QAM 変調システムへの適用	総合	B-5-58
後藤 広樹	東北大	周波数利用効率 8.6bit/s/Hz を有する周波数分割多重 1Gsymbol/s, 64 QAM コヒーレント光伝送	ソサイエティ	B-10-70
坂田 勉	パナソニック	角度広がりを考慮した空間フェージングエミュレータ	総合	B-1-42
沈 紀輝	NTTドコモ	複数回測定による RTT 測位精度向上に関する検討	総合	B-5-17
鈴木 慎一	NHK	軟判定復調方式ミリ波モバイルカメラのスタジオ内伝送実験	ソサイエティ	B-5-98
立花 篤男	KDDI 研	複数パス上のパケット遅延計測に基づく品質劣化区間推定法の検証	総合	B-16-15
		シミュレーション解析に基づく BGP 経路障害箇所推定法の提案	ソサイエティ	B-16-6
千葉 英利	三菱電機	Particle Swarm Optimization を用いたレドームの最適設計	総合	B-1-181
		On the Inner-Outer Flexible GMRES Using the Fast Multipole Method	ソサイエティ	B-1-66
堤 由佳子	東芝	金属近接時にインピーダンス変化の少ない線状アンテナ	総合	B-1-99
		ハンドヘルド機器内蔵用低姿勢 2 共振アンテナ	ソサイエティ	B-1-104
中島 昭範	三菱電機	階層化シンボルを用いる繰り返し干渉キャンセルの伝送特性	ソサイエティ	B-5-69
永田 聡	NTTドコモ	Evolved UTRA における CQI 報告の誤りを考慮した下りリンクスループット特性評価	総合	B-5-36
		Evolved UTRA 下りリンクにおけるペリフィケーションを用いるセルサーチ法	ソサイエティ	BS-4-14
長手 厚史	ソフトバンクモバイル	マルチリンク伝送における周波数オフセット干渉キャンセラの検討	総合	B-5-25
		複数基地局協調送信電力制御に送信電力再配分法を適用した場合のスループット改善効果	ソサイエティ	B-5-5
林 理恵	NTT	全光網における impairment を考慮した Traffic Engineering	総合	B-6-40
		Novel traffic engineering control systems considering impairment in all-optical networks	ソサイエティ	BS-12-35
原田 薫明	NTT	分割監視による異常トラフィックの可検出性についての一考察	総合	B-7-10
		差分トラフィック量を利用した異常ボリューム変化特定手法の精度評価	ソサイエティ	BS-6-3
藤井 啓正	NTTドコモ	3次元地図データを用いた ITU-R 勧告 P.452 におけるクラック損失算出方法の検証	総合	B-1-33
藤野 洋輔	NTT	広域ユビキタスネットワーク用ダイバーシチ技術(2)一周波数オフセット送信ダイバーシチ	総合	BS-1-19
増野 淳	NTT	OFDMA 無線システムにおけるサブキャリアオーバーラップに関する一検討	総合	B-5-130
		マルチキャリア重畳伝送における FEC 尤度マスクを用いた干渉抑圧方式の提案	ソサイエティ	B-5-83
松村 寛夫	三菱電機	超分解能処理における演算精度の影響	ソサイエティ	B-2-20
水野 淳平	NTTドコモ	World Wide Web による電波伝搬推定用レイトレーシングシステム	総合	B-1-55
		計算規模を考慮したレイトレースシステムのジョブ制御法	ソサイエティ	B-1-7

宮崎 功旭	KDDI 研	IMT-Advanced テストベッドを用いた下り R-OFDM 特性実験結果	総合	B-5-95
		IMT-Advanced テストベッドを用いたツイーターボ復号特性実験結果	ソサイエティ	B-5-23
宮澤 雅典	KDDI 研	IP/MPLS/GMPLS 網のネットワークリソース管理手法の提案	総合	B-14-10
		NMS によるマルチレイヤネットワークの動的帯域制御手法	ソサイエティ	B-14-11
森 浩樹	東芝	THP を用いたマルチユーザ MIMO システムにおけるストリーム割り当て方法の提案	総合	B-5-54
山崎 浩輔	KDDI 研	ソフトウェア無線技術を用いた通信機器主導型通信モード変更方法の提案	総合	B-17-2
		複数信号処理プラットフォームへの効率的な SDR ソフトウェア移植に関する一検討	ソサイエティ	B-17-17
山田 明	KDDI 研	大規模 DNS サーバのための異常検知方式の提案	総合	B-7-15
山登 庸次	NTT	電話-Web 連携を促進する実行制御機能の検討	総合	B-19-10
		Web-Telecom 連携サービスの擾乱防止機能の検討	ソサイエティ	B-19-1
吉間 聡	三菱電機	10Gbps PON 用パースト光送信器の Turn-on/off 時間に関する検討	総合	B-10-56

〔エレクトロニクスソサイエティ〕: 15 名

受賞者	所属	題名	大会別	講演番号
安藤 暢彦	三菱電機	帯域通過特性サンプリングフィルタの構成検討	ソサイエティ	C-2-93
今村 明博	東工大	可変微小中空光導波路からの放射特性	総合	C-3-93
		可変中空光導波路を用いた光回路	ソサイエティ	C-3-22
岡本 健志	NEC	半導体 MZ・ループリングフィルタを用いた小型広帯域波長可変レーザ	総合	C-4-21
河口 民雄	東芝	気象レーダー用狭帯域送信フィルタの回路検討	ソサイエティ	C-2-83
妹尾 和則	NTT	アレイ導波路格子と空間光変調素子を用いたチャンネル個別設定可能な可変分散補償器	総合	C-3-55
		PLC-空間光学系融合技術を用いた多チャンネル個別可変分散補償器	ソサイエティ	C-3-76
陳 春平	神奈川大	急峻なバンドエッジ特性を持つ小型擬似楕円関数 UWB バンドパスフィルタの設計	総合	C-2-108
西村 直也	古河電工	光インターコネクション用高密度実装コネクタ	総合	CS-6-5
能登一二三	三菱電機	負の群遅延時間に対する回路パラメータ依存性の検討	総合	C-2-82
		抵抗装荷型安定化回路による C 帯 GaN HEMT 高出力増幅器の利得平坦化検討	ソサイエティ	C-2-29
林 宏暁	日立	1.3 μ m 帯アンクルド EA/DFB レーザによる 43Gbps 10km 伝送	ソサイエティ	C-4-2
藤原 直樹	NTT	熱補償型 SSG-DBR レーザによる 140nm 高速波長掃引	総合	C-4-18
二ッ森俊一	北大	高温超伝導リアクション送信フィルタを用いた 5GHz 帯電力増幅器の隣接帯域ひずみ改善量評価実験	総合	C-2-94
		5GHz 帯高温超伝導リアクション送信フィルタを用いた電力増幅器の両側隣接帯域ひずみ改善	ソサイエティ	C-2-84
淵田 歩	東工大	導波路交差角 90 度を可能とするスローライト全反射型光スイッチ	総合	C-3-69
		スローライト光導波路における挿入損失の偏光依存性	ソサイエティ	C-3-27

宮永 和明	秋田大	接点低速閉成時の定常接触電圧到達時間の測定	総合	C-5-7
		低速閉成時の接触電圧の電流依存性の測定	ソサイエティ	C-5-2
山崎 裕史	NTT	2.5% Δ 超小型 PLC への CSP-PD スタック型インラインモニタ集積	総合	C-3-25
米田 諭	三菱電機	2 波長リング共振器と 1/4 波長オープンスタブを用いた 60GHz 帯 LTCC デュアルモードフィルタ	総合	CS-3-4
		SIW 共振器装荷 Q 帯薄型導波管 BRF	ソサイエティ	C-2-66

〔情報・システムソサイエティ〕：9 名

受賞者	所属	題名	大会別	講演番号
後守 裕介	電通大	カラー画像の二つの色成分の関係に基づいてランダムゆがみとアフィン変形に対応する画像電子透かし方式	総合	DS-4-9
阿部俊一郎	東北大	ADPCM を規範に用いた logPCM への下位ビット置換法の提案	総合	DS-4-3
上野 智史	KDDI 研	局所色特徴に基づく胃生検類似画像検索の検討	総合	D-16-12
上向 俊晃	KDDI 研	CGM 動画像におけるハイライト画像抽出手法に関する考察	総合	D-12-25
岡本 和也	京大	オンライン実時間スケジューリング問題における競合比の上限の改良	総合	DS-1-12
河合 紀彦	奈良先端大	局所形状の類似度に基づくエネルギー最小化による三次元欠損修復	総合	D-12-78
佐野 卓	NTT	HDTV 対応双方向通信用 H.264/AVC リアルタイム並列ソフトウェアコーデック	総合	D-11-15
志水 信哉	NTT	Global Depth Map を用いた多視点映像符号化における予測情報削減	総合	D-11-1
韓 昇龍	東大	時間変化を考慮したランレンスをを用いた Time-Varying Mesh の幾何情報	総合	D-11-108

5. 教育活動に関する事項（定款 第 6 条ロ、へ）

平成 18 年度に発足した生涯教育委員会、アクレディテーション委員会、CPD 委員会、小中高生科学教室委員会で構成する教育活動協議会を中心に平成 20 年度も教育活動を展開した。

5.1 先端オープン講座に関する事項

講座会場に関しては、春季講座は、平成 19 年度に引き続き機械振興会館耐震工事のため、近隣の会場を使用して開講し、秋季講座は、機械振興会館の工事完了により、会館の会議室での開講に戻した。受講者へのサービス維持に配慮するとともに、以下の方策を実施し受講者確保に努めた。①受講者の負担軽減と選択幅を広げ、タイムリーな受講を促進するため、5 回コースを主体とするコース編成を実施するとともに、2 日間の短期集中コースとして 2 コースを開講した。② CPD（技術者の継続的な教育・能力開発）との連携に向け関連学協会と協賛した周知・宣伝。③大口受講団体の探索と継続的取り組み。④新設コースによる新規受講者の開拓（プロジェクトマネジメントコース）。また、平成 19 年秋から導入したオブジェクト指向と Java 技術での PC 利用演習を継続、実施した（PC 演習の工夫、評価を通して、他のコースへも拡大の予定）。⑤継続的受講を促進するための 2 回目以降受講料の割引。⑥非会員受講者増大に向けたソフトウェア講座専用ホームページの開設及び継続的な新聞雑誌への講座案内記事掲載。また、支出面で経費節減に努めた。春季講座（5 月 10 日～7 月 12 日）と秋季講座（10 月 4 日～12 月 20 日、

ただし 11 月 1 日、22 日休講）を土曜日に開講した。開講講座と受講状況は次のとおりであった。

〔春季講座〕

コース別	受講者数 ()：内団体受講数
A：情報通信ネットワーク技術	23 名
Aa：NGN とインターネット及び IP ネットワーク技術	16 名
B：システム LSI 設計技術	4 名 (1)
新 C：実践プログラムマネジメント	15 名 (1)
E：オブジェクト指向と Java 技術	9 名
F：情報セキュリティ技術	14 名
計	81 名

(ただし、Aa、F コースは全 5 回、新 C、E コースは短期集中講座)

〔秋季講座〕

コース別	受講者数 ()：内団体受講数
A：情報通信ネットワーク技術	14 名
Aa：NGN インターネット及び IP ネットワーク技術	27 名 (5)
新 C：実践プログラムマネジメント	24 名 (4)
E：オブジェクト指向と Java 技術	10 名
F：情報セキュリティ技術	13 名 (2)
計	88 名

(注) 秋季は、B コース休講により 5 コースの開講

5.2 JABEE 活動について

JABEE の学部認定審査はほぼ軌道にのってきており、平成 20 年度は定常的な活動を行った。JABEE 本体への委員の派遣をして JABEE の運営に協力するとともに、学部プログラムの審査を電気学会、情報処理学会と連携して実施した。また、審査員の確保並びに教育機関への最新規程等の周知を目的に、JABEE 審査講習会を 12 月(東京)と 3 月(愛媛)に開催した。

5.3 技術者の継続的な教育・能力開発

CPD (Continuing Professional Development) 委員会は、本会の技術者教育への取組みを JABEE 活動と CPD 活動を車の両輪として形成するとの位置付けから設置され、日本工学会下の CPD 協議会 (19 年度に PDE 協議会から改組) と連携して活動を進めている。20 年度も 19 年度に引き続いて、電気学会、情報処理学会と協力して、「電気電子・情報系 CPD 協議会」を密接に開催し、共同で協議を進めた。特に、新しい会員サービス実現のため、技術者に対する Web 版 CPD ポイント登録システムの試行運用を継続して、本格実施に向けた問題点の検討を深めた。合わせて、技術者資格制度の検討も進めた。

関連資料：<http://www.ieice.org/jpn/cpd/index.html> に掲載。

5.4 小中高校生を対象とした科学教室

小中高校生を対象とした科学教室は、子供の科学離れを防ぐための活動の一環として平成 8 年度より実施してきた。平成 20 年度も会員及び関連企業の協力の下に、各支部と連携して、活動範囲等を拡大しながら実施した。開催回数は 22 回、参加者合計は 1,534 名であった。

本活動を開始してから 10 年強経過しており、これまで、長年ボランティアとして活動して頂いた講師の方々に対し、本年度に会長名の感謝状を贈り、謝意を表した。

また、本活動を支えている「子供の科学教室基金」を長期的、健全に維持するため、平成 14 年度から開始した募金活

動については、平成20年度（平成21年3月末現在）423名（個人会員420名と2法人，維持員1社）から約150万円の募金協力を得て有効に利用させて頂いている。

平成20年度の活動状況について以下に示す。

題 目・講 師（敬称略）	開催年月	参加数
見学会：NHK放送技術研究所 テ ー マ：「見てみよう！最先端技術の世界」 講 師：久保田啓一・九鬼孝夫・三ツ峰秀樹（NHK） 共催支部：東 京	H20.6.28	61名
実習教室：東京大学会場 テ ー マ：「コンピュータ・プログラミングを自作してみよう！」 コーディネータ：池田 誠（東大） 講 師：浅見 徹（東大），山崎克之（長岡技科大），野々山紫（NTT-AT） 共催支部：東 京	H20.7.20	33名
見学会：NTT武蔵野研究開発センタ テ ー マ：「見てみよう！通信技術の最先端」 講 師：池田博昌（東京情報大），石井六哉（横浜国大） 共催支部：東 京	H20.7.23	93名
科学教室：日本女子大学会場 テ ー マ：不思議がいっぱい科学の世界 講 師：今井 元・黒沢 格（日本女子大） 共催支部：東 京	H20.7.26	56名
科学教室：大阪大学基礎工学部会場 テ ー マ：大阪大学基礎工学部システム科学科電子システム学コース一日体験入学 講 師：飯國洋二（阪大）	H20.7.28	34名
見学会：大学の研究室訪問（中央大学：牧野研究室） 講 師：牧野光則（中大） 共催支部：東 京	H20.8.6	19名
見学会：大学の研究室訪問（日本女子大学：小籠研究室・今井研究室） 講 師：小籠香椎子・今井 元（日本女子大） 共催支部：東 京	H20.8.9	19名
見学会：大学の研究室訪問（東京工業大学：古井・篠田研究室） 講 師：古井貞照・岩野公司（東工大） 共催支部：東 京	H20.8.11	18名
科学教室：明治大学会場 テ ー マ：夏休み科学教室 講 師：玉木久夫・井口幸洋・宮下芳明（明大） 共催支部：東 京	H20.8.21	41名
体験教室：名古屋テレビ塔 テ ー マ：高校生のためのロボット体験教室 講 師：高橋友一・小中英嗣（名城大） 共催支部：東 海	H20.8.26	14名
科学教室：横浜国立大学会場 テ ー マ：不思議がいっぱい科学の世界 講 師：石渡信吾・但馬文昭・吉原美知子・川原田康文・平山次清（横浜国大） 共催支部：東 京 ※本科学教室は横浜国立大学の市民講座の中で、子供・保護者向けに企画した科学教室で、本会と共催した科学教室です。（企画：横浜国立大）	H20.9.13 9.20 9.27	163名
科学教室：横浜国立大学会場 テ ー マ：不思議がいっぱい科学の世界 講 師：篠田庄司（中大），池田博昌（東京情報大），石井六哉（横浜国大），白川 功（兵庫県立大），築山修治（中大），小山正樹（奈良先端大） 共催支部：東 京 ※本科学教室は横浜国立大学の市民講座の中で、本会が企画し共催した科学教室	H20.10.4	103名
科学教室：中央大学会場 テ ー マ：安心して生活できる社会をめざして 講 師：今井秀樹（中大） 共催支部：東 京	H20.11.1	30名
科学教室：愛媛大学会場 テ ー マ：愛媛大学科学体験2008 フェスティバル 後援支部：四 国 ※この企画は愛媛大学で毎年開催している「愛媛大学科学体験フェスティバル」の企画に本会四国支部が参加	H20.11.8 11.9	370名

科学教室：機械振興会館会場 テ ー マ：音の正体 講 師：大賀寿郎（芝浦工大，東京電機大） 共催支部：東 京	H20.11.9	35名
科学教室：帝塚山大学会場 テ ー マ：不思議がいっぱい科学の世界 講 師：篠田庄司（中大），池田博昌（東京情報大），石井六哉（横浜国大），白川 功（兵庫県立大），小山正樹（奈良先端大），日置慎治・堀真寿美（帝塚山大） 共催支部：関 西	H20.11.22	35名
工作教室：秋田県立大学会場 テ ー マ：デジタルタイマーをつくり，時計のしくみをしよう!! 講 師：阿部紘士・高山正和・戸花照雄（秋田県立大） 共催支部：東 北	H20.11.22	27名
科学教室：日本女子大学会場 テ ー マ：不思議がいっぱい科学の世界 司 会：今井 元（日本女子大） 講 師：濱部 勝・高橋雅江（日本女子大） 共催支部：東 京	H20.11.29	41名
見学会：大学の研究室訪問（東京大学：工学部電子情報系・VDEC） 講 師：三田吉郎・杉山正和・山崎俊彦・久保田雅則・澤村智紀（東大） 共催支部：東 京	H21.1.24	64名
科学教室：日本女子大学会場 テ ー マ：魅力いっぱいの科学の世界を体験しよう 講 師：小籠香椎子・小川賀代（日本女子大） 共催支部：東 京	H21.2.21	32名
講演会：那覇高校出前教室 講 師：池田博昌（東京情報大），高良富夫（琉球大）	H21.3.5	200名
科学教室：琉球大学会場 テ ー マ：不思議がいっぱい科学の世界 講 師：翁長健治（琉球大），池田博昌（東京情報大），築山修治（中大），石井六哉（横浜国大），高良富夫・名嘉村盛和（琉球大） 共催支部：九 州	H21.3.7	46名

計22回1,534名

6. 関連学術団体との連携に関する事項（定款 第6条チ）

平成20年度は、下記のほかに274件の協賛・後援等を行った。

- ・7私立大学合同シンポジウム「男女共同参画の輪を上げよう」

（平成20年11月1日 東京女子医科大学，日本女子大学，早稲田大学，慶應義塾大学，津田塾大学，東海大学，日本大学主催）

- ・日英シンポジウム「情報化社会におけるプライバシーとセキュリティ」

（平成20年11月11日，12日 日本工学アカデミー，英国王立工学アカデミー主催）

7. 専門講習会に関する事項（定款 第6条ロ）

支部主催，本部支援の専門講習会を次のとおり開催した。

支部名	題 目	開催年月日	参加者数	場 所
東 北	微細加工・ナノテクノロジーの最新技術	H20.12.19	100名	秋田大学
信 越	組込みシステム講習会（ハード・ソフトのコアデザイン）	H21.2.5,6	17名	長岡技術科学大学
東 海	グリーンITに向けた技術開発の最前線	H21.3.13	71名	ローズコートホテル
北 陸	専門講習会	H21.3.9,10	7名	富山大学

関西	安全運転支援に向けた ITS 技術の最新動向	H21.1.16	31名	中央電気倶楽部
四国	uCLinux 組み込み技術講座 インターネットを利用した遠隔制御入門	H20.8.9 H20.11.22	10名 5名	高松高専 詫間電波高専
九州	光・電波を用いた可視化技術の最新動向	H20.12.5	44名	宮崎大学

計7回

8. 学生事業に関する事項 (定款 第6条へ, チ)

8.1 会誌「学生会報告」欄の掲載記事

各支部学生会の活動状況等を会誌「学生会報告」欄に掲載した。

- ・平成20年7月号：平成19年度各支部学生会事業報告
- ・平成21年2月号：各支部・学生ランチ学生員の感想

8.2 学生員の入会勧誘

各支部に入会勧誘のためにPR用資料として、「ポスター」と宣伝を兼ねた「学生用入会案内」をそれぞれ配布した。

各支部において学生員増強基金を利用した学生員勧誘, 学生ランチ設置校募集が行われた。また, 継続検討事項として, 学生員増強基金の有効利用, 基金利用基準について検討を行った。

8.3 学生へ情報小冊子の配布

学生への情報小冊子「学生の皆さんへ」を10,500部作成し, 年2回学生員及び各支部へ配布した。特に卒業(修了)予定の学生に対して, 正員に昇格する際の会費減額サービスを早期に連絡して会員手続き依頼をするとともに, 会費未納者への支払請求を1月から毎月行った。

8.4 学生ランチについて

平成20年度は, 以下の19校(会津大, 東北大, 慶大, 千葉大, 千葉工大, 津田塾大, 電通大, 東工大, 都立産業技術高専, 日本女子大, 信州大, 豊橋技科大, 名大, 名城大, 愛媛大, 香川大, 徳島大, 大分大, 琉球大)から活動報告があった。

また, ホームページ「学生のひろば」に学生ランチの活動紹介記事及び設置申込みから報告書作成までの資料, 流れを掲載し, 学生ランチ設置校の増大を図った。

支部活動として実施するため, 設置校の申請を各支部を通じて受け付けることとした。また, 各支部学生ランチの活動については, 学生会連絡会に報告し, 各支部学生が自主的に参加し, 運営していける環境作りを検討した。

9. 男女共同参画に関する事項 (定款 第6条ハ, チ)

電子情報通信工学分野において男女が共に, 研究・開発・教育等の仕事や勉強, 及び学会活動に, 十分な力を発揮して快適に参画するための活動を推進した。

平成20年度の活動は以下のとおりである。男女共同参画学協会連絡会の大規模アンケートの報告書作成に参加。女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～に後援, 実行委員会に参加し, ポスター展示を実施。男女共同参画学協会連絡会の幹事団に参加。女子学生のための男女共同参画企業見学ツアーを実施。女子高校生ジュニア科学塾2008 in 関西に後援, 本学会から実行委員が参加, 学会グッズを提供。平成21年3月の総合大会において, 託児室を開設。

10. 検討部会に関する事項 (定款 第6条ハ, チ)

10.1 他学会との連携について

平成16年に「電気・情報関連学会連絡協議会」を発足させ, 共通の問題に対して協力して取組みを進めてきた。他学会への各種行事に会員扱いで参加を認め合い, 共通のホームページを立ち上げて各学会のホームページとリンクを張るなど進めてきた。平成20年度は, 新法人法に対する取組みを共通課題と位置付け, 貴重な情報交換を行った。

10.2 卓越技術データベースの作成について

電気・情報関連5学会連携による平成20年度科学研究費補助金に基づくデータベース作成活動(第2期)を実施した。我が国の卓越技術について, 今年度は1,033件(うち, 本会分は188件)を追加し, 第1期と合わせた1,603件(うち, 本会分は294件)について, 「電気のデジタル博物館(www.dbjet.jp)」として公開している。(件数は2009年2月16日時点における集計値である。)

11. 会員に関する事項 (定款 第3章)

11.1 名誉員の推薦

今井 秀樹 (中大)
釜江 尚彦 (NII)
榊 裕之 (豊田工大)
富永 英義 (早大)
平田 康夫 (ATR)
山田 宰 (パイオニア)

を定款第7条イ項により名誉員に推薦した。

11.2 フェロー称号の贈呈

[基礎・境界ソサイエティ:7名]

贈呈者氏名	貢献内容
稲垣 敏之	人と機械の協調に基づくシステムの安全制御に関する研究
今井 正治	電子設計自動化技術の教育研究および標準化
潮 俊光	非線形及び離散事象システムの解析と制御
酒井 英昭	信号処理における統計的理論の発展
林 初男	脳のカオスの発見と脳型情報処理への非線形力学の応用
藤原 融	誤り訂正符号と情報セキュリティの先駆的研究
渡邊 敏正	組合せ最適化問題の計算複雑度解析とアルゴリズム設計

[通信ソサイエティ:34名]

贈呈者氏名	貢献内容
阿部 威郎	通信網信頼性に関する研究と通信品質研究活性化への貢献
荒木壮一郎	フォトニックノード・ネットワーク制御技術の研究開発への貢献
池田 哲夫	電磁環境の生体効果の先駆的研究と社会啓発活動への貢献
岩下 克	光の周波数を制御する高性能光ファイバ通信技術の先駆的研究開発
宇高 勝之	大容量光伝送システム用動的単一波長レーザの先駆的研究開発
宇野 亨	計算電磁気学の基礎とその応用に対する貢献
梅比良正弘	衛星通信および無線アクセスの変復調技術の研究開発に対する貢献
越後 宏	環境電磁気学の基礎研究と学術普及に関する貢献
小粥 幹夫	光ファイバケーブル高信頼化技術に関する貢献
小川 恭孝	無線通信における空間領域信号処理およびその応用への貢献
片山 正昭	無線通信方式分野における研究と教育に対する貢献
小林 英雄	デジタル信号処理を用いた高性能変復調技術の研究への貢献
古賀 隆治	プリント回路基板からの電磁放射解析とEMC研究連携への貢献

阪田 史郎	マルチメディア通信, ユビキタスネットワークの研究開発への貢献
庄木 裕樹	衛星搭載アンテナおよび無線通信アンテナの研究と実用化への貢献
神力 正宣	レーダ信号処理に対する貢献
鈴木 修三	光ファイバケーブルの研究開発と実用化
鈴木 正敏	高速光通信システムへの貢献
鈴木 康夫	アンテナの高性能化および高機能化とその実用化に対する貢献
立田 光廣	光ファイバの特性評価ならびに設計による光伝送方式実用化への貢献
梨本 恵一	PLZT 薄膜光導波路技術の確立による光ネットワークへの貢献
波平 宜敏	光海底ケーブル用光ファイバと測定法の先駆的研究開発と実用化
新津 善弘	ネットワークサービスソフトウェア技術の研究開発に対する貢献
橋本 弘藏	地球から出る自然電波の研究と宇宙太陽発電所の研究推進への貢献
藤井 伸明	オブジェクト指向通信網オペレーションシステム技術開発への貢献
堀 俊和	ワイヤレスシステムのための高性能アンテナの研究実用化への貢献
牧野 滋	衛星通信用反射鏡アンテナの研究と実用化への貢献
真鍋 武嗣	ミリ波伝搬およびサブミリ波帯放射計測技術に関する研究への貢献
森川 博之	ユビキタスネットワークに関する先駆的研究
守倉 正博	無線 LAN システムの研究開発と標準化への貢献
山中 直明	光ネットワークおよび超高速スイッチング技術の研究への貢献
若原 恭	ネットワークソフトウェア技術に関する研究開発と学会活動への貢献
和田 修	光信号処理に向けた革新的光デバイスの開発と光ネットワーク応用
渡邊 文夫	衛星及び移動通信システムとアンテナに関する研究開発への貢献

〔エレクトロニクスソサイエティ：5名〕

贈呈者氏名	貢献内容
大森 裕	有機電子・光材料の開拓と有機発光デバイスへの貢献
茅根 直樹	半導体レーザーの動作特性に関する先駆的研究と実用化への貢献
本城 和彦	マイクロ波半導体回路の高性能化および集積回路化への貢献
三上 修	光表面実装技術の先駆的研究
吉田 淳一	通信用光半導体デバイスの研究開発と国際標準化への貢献

〔情報・システムソサイエティ：12名〕

贈呈者氏名	貢献内容
石田 亨	デジタルシティの実証的研究への貢献
井出 秀人	生体計測および福祉機器応用に関する研究と教育への貢献
伊東 晋	画像の符号化, 画像認識, 放送システムの研究開発への貢献
井上 克郎	ソースコード解析技術の実用化に関する貢献
金子 正秀	顔画像処理, ヒューマンインタフェース技術の研究開発への貢献
菅原 研次	知識処理技術の知的分散システムへの応用に関する先駆的研究
田中 和世	音声認識技術の高度化と音声インタフェース標準化の推進
仁木 登	医用画像処理に関する研究と情報工学の教育への貢献
馬場 敬信	コンピュータシステムに関する先駆的研究及び教育への貢献
平井 有三	ニューラルネットワークの技術発展に対する貢献
森 欣司	自律分散システムの提案, 技術研究開発, 実用化への貢献
吉川 正俊	データ工学における先進的研究とその応用に対する貢献

11.3 シニア会員称号の贈呈

選奨委員会において平成19年度に検討し、理事会、総会で承認を得たシニア会員制度は、平成20年度から申請を開始し、ホームページ及び数回にわたる会誌会告欄を通じて会員への周知に努めるとともにWebによる申請システムを構築した。その結果として、300名を超えるシニア会員の申請を受付、現在、各ソサイエティで審査中である。その後、シニア会員審査委員会、5月理事会の承認を受けて、贈呈する予定である。

11.4 会員の現況

会員数の減少を意識して平成19年度からの、(1)会費の前納制、(2)銀行・郵便局での自動引落とし会費の5%割引、を継続的に実施した。これらの施策により平成20年度末の会員数は下表に示すように前年度と比較するとマイナスに転じているが、前納制移行前の減少と比較すると歯止めがかかった状態でもあり、更に継続的に調査を実施する。

会員数の減少に対する継続的な取組みとして、(1)各学生員に対して学生員から正員への移行時の2年間会費減額サービスの周知と「正員証」の送付、(2)支払いを忘れて滞納している会員に対して継続的な会費請求を実施、(3)学生員の意識向上を意識して学生ブランチ校の増大施策、などを実施した。

(1) 会員数は次のとおりである。

上段：年度末会員数 ()内はフェロー会員数
下段：年度末会員数 (当年度会費未納者を除いた会員数)

会員種別	名誉員	正員	学生員	准員	特殊員	維持員	合計
平成19年度末会員数	83(23)	29,443(583) 27,884	5,747 5,420	146(1) 128	375	228	36,022(607) 34,118
平成20年度末会員数	86(28)	29,368(628) 27,411	5,867 5,553	2	353	201	35,877(656) 33,606
前年度末との差	3(5)	-75(45) -473	120 133	-144(-1) -126	-22	-27	-145(49) -512

(注) 名誉員の関口利男は平成20年11月17日に、山口開生は12月30日に逝去した。

(2) 各支部における年度末予定会員数は次のとおりである。

上段：年度末会員数 ()内はフェロー会員数
下段：年度末会員数 (当年度会費未納者を除いた会員数)

会員種別 支部	名誉員	正員	学生員	准員	特殊員	維持員	合計
北海道	1(1)	495(12) 457	248 234	0	3	4	751(13) 699
東北	8	935(44) 885	178 173	0	17	5	1,143(44) 1,088
東京	58(17)	16,647(384) 15,857	2,041 1,964	1	202	130	19,079(401) 18,212
信越	0	487(6) 448	129 124	0	11	6	633(6) 589
東海	4(3)	1,801(38) 1,688	487 463	0	31	18	2,341(41) 2,204
北陸	0	490(8) 458	140 134	0	6	1	637(8) 599
関西	10(5)	3,724(84) 3,511	794 760	1	47	28	4,604(89) 4,357
中国	1(1)	869(13) 804	306 295	0	13	3	1,192(14) 1,116

四 国	1(1)	449(7) 394	224 209	0	7	1	682(8) 612
九 州	0	1,295(24) 1,190	531 505	0	15	5	1,846(24) 1,715
海外在住	3	161(4) 141	5 3	0	1	0	170(4) 148
Overseas	0	2,015(4) 1,578	784 689	0	0	0	2,799(4) 2,267
合 計	86(28)	29,368(628) 27,411	5,867 5,553	2	353	201	35,877(656) 33,606

Ⅱ. ソサイエティ事業

ソサイエティ制開始14年目にあたる平成20年度は、各ソサイエティにおいても特色のある企画等を実施し、研究調査活動も順調に推移した。また、各ソサイエティの連携を図るためにソサイエティ連絡会を4回開催した。

◎ 基礎・境界ソサイエティ

平成20年度に行われた基礎・境界ソサイエティの活動のうち主なものを下記に示す。

(1) 技術研究報告のオンライン化に関する基本的な考え方

下記の意見を基礎・境界ソサイエティの意見として研究会SWGに上げた。

(a) 技報のオンライン化に伴う新たな収益モデルの構築及び収入の保証までは、学会全体の問題として学会本体で検討して頂くことを希望する。一方、オンライン化の具体的な実施方法は、各ソサイエティの実態に合わせてソサイエティで検討する。

(b) 基礎・境界ソサイエティでは、技報のオンライン化後も印刷版の技報を当面存続させる。

(c) 今後の検討資料とするため、印刷版の論文誌を取りやめた際の検討事項や収支の推移などに関する情報の提供を依頼する。

(d) 技報の電子化とオンライン化の区別を明確にするよう、研究会SWGに働きかける。

(e) 技報のオンライン化にあたっては、過去の著作権の委譲をどのように行うのかについて、学会本体に検討を要請する。

(2) ITC-CSCCの今後の進め方

IEEKからのレターを受け、ITC-CSCCの今後について、基礎・境界ソサイエティ内でWGを作り議論した。結論として、基礎・境界ソサイエティがエレクトロニクスソサイエティと協力し、今後の発展をサポートしてゆくこととした。またソサイエティとしても本会議をソサイエティレベルの国際会議と位置付け、対IEEKに関する事項に関しては、事業担当副会長が対応することとなった。

(3) 新電子論文誌 Nonlinear Theory and its Applications, IEICE (略称 NOLTA) の発行に向けて

11月28日に開催された基礎・境界運営委員会において非線形理論とその応用サブソサイエティ会長から、新しい電子英文論文誌を発行することの提案があった。審議の結果、基礎・境界運営委員会として、発行に向けて進めるという提案を承認した。本件は2月16日の理事会で承認された。今後、発行に向けて準備を進めていく。

(4) SITAをIEICEに迎えるための検討状況報告

「情報理論とその応用学会(略称SITA, サイタ)」を新た

なサブソサイエティとして受け入れることができるかどうかについて検討した。11月28日の運営委員会で、これまでの検討の経緯が報告され、更に今後は、基礎・境界側でも検討WGを作り、SITA側WGと合同で検討を進めることが提案され、承認された。具体的には、平成21年1月以降の合同WGで様々な問題点を検討し、双方の学会に適宜進行状況を報告しながら進めることとした。1月12日及び2月22日に合同WGが開催され、詳細な検討を行った。今後、更に検討を進めていく。

(5) 学術研究集会の活動終了について

本部規程の「学術研究集会処理要領」が平成20年12月31日で廃止となることに伴って、基礎・境界ソサイエティに三つあった下記の学術研究集会の活動を終了することとした。

- ・ 非線形理論とその応用学術研究集会
- ・ 多次元移動情報ネットワーク学術研究集会
- ・ ITC-CSCC学術研究集会

上記のうち、「多次元移動情報ネットワーク学術研究集会」の活動終了報告が11月28日の運営委員会で行われた。また、「非線形理論とその応用学術研究集会」は今後、非線形理論とその応用サブソサイエティの中で活動を引き継いで行うこととした。「ITC-CSCC学術研究集会」は本報告の(2)のとおり、ソサイエティレベルの国際会議と位置付けて、ソサイエティ全体で活動を行っていくこととした。

(6) 活性化WGの活動を幹事会として行うことについて

これまで「活性化WG」として、ソサイエティの活性化を中心に議論してきたWGの活動を終了し、今後はこの活動を継続して、幹事会として開催することとした。その主な理由は、活性化WGは基礎・境界ソサイエティの方針や課題を実質的に検討する重要な場であるのに、会長と次期会長がオブザーバとなっている、また、4名のサブソ会長が活性化WGのメンバーでないなど、幹事会として開催した方が会議の内容にふさわしいことによる。

(7) 技術報告合冊化について

複数日にわたって国際ワークショップと研究会を共催する場合に、技術報告を合冊とすることが承認された。

(8) ソサイエティ表彰者の決定

7月18日(金)に電気通信大学においてソサイエティ表彰審議委員会を開催し、功労賞2件、功労感謝状9件の表彰者を決定した。なお、特別功労賞の該当者はなかった。ソサイエティ大会期間中の9月17日(水)に表彰式が行われた。

(9) 活性化事業としてソサイエティ内のホームページの充実

Fundamentals Review誌のWeb上での公開をはじめ、Webでの情報発信は会員サービス向上のためにますます重要となる。このため、WGを設置し、基礎・境界ソサイエティのホームページ全体をデザインを含め見直した。活性化事業費として60万円を使用することとした。

(10) 時限研究専門委員会の活動継続の承認

これまで4年間活動してきた「イメージメディアクウォリティ時限研究専門委員会」に関して、同研究専門委員会の申請に基づき、更に2年間活動を継続することを運営委員会メール審議で承認した。

◎ 通信ソサイエティ

通信ソサイエティでは、平成18年度より独立採算化の本格実施を行い、会計処理の透明化と財務基盤の把握に努め、機動的な活動が可能な環境作りを進めるとともに、執行委員

会・会員サービス幹事，ソサイエティ編集会議，研専運営会議を中心に活性化のための施策を進めてきた。

(1) 財務管理

本部との会費配分及び総合大会剰余金配分の見直しや，本部の国際会議立替資金制度の廃止などがあり，ソサイエティの独立採算化が一段と進んだ。ソサイエティの財務基盤は，収入が微減ながらも，様々な費用効率化により堅調な基盤を維持している。したがって，財務施策としては，技報電子化トライアルシステム構築への費用投入，総合大会・ソサイエティ大会アーカイブ化への費用投入などの活性化施策の推進を行った。

また，今年度決算から一般社団法人法の適用を受けることになり大きなインパクトがあるため，決算主義に基づく新会計ルールを国際会議関係者，研専活動関係者へ展開した。特に，主催・共催する国際会議の収支は新たにソサイエティ会計に組み込むことになったため，活動財務規模が拡大した数字での決算となった。

(2) 研究専門委員会

会員アンケートの結果を受け，研究専門委員会の担当専門分野の整理を行った。ホームページ掲載時の体裁を考慮し，全研究専門委員会に対して項目数に上限を設け，研究会，大会への投稿時の参考情報として有益に使用頂けることをねらっている。また，研専運営会議活性化資金について，常設研究専門委員会が活性化を目的にある程度自由に使用できる枠を設け，研究会活動の活性化のための施策を推し進めた。また，昨年度より開催している研究専門委員会横通しの情報交流のための幹事連絡会を，今年度は決算，予算が大きく変更となることから2回開催し，手続きの大幅変更に対応できるよう準備を進めた。大会活性化施策についても，継続的に各研究専門委員会にて検討を進めている。

(3) 技報電子化

技報電子化実運用時の利用状況データ収集を行う目的で，10月から技報電子化トライアルを実施した。技報予約者以外に，各研専がトライアルアカウントを配布できることとし，トライアルによる有益なデータを数多く収集できるようにした。今後トライアルを継続しシステム修正などの内容の充実を図る予定である。また，利用状況や利用者に対するアンケートの実施結果等を分析し，会員数の推移や収支予想もした上で，技報電子化の実運用の可否について通ソとしての判断を行う。実運用を行うと判断した場合には，実運用段階に向けた課題を整理し，その解決策について検討し，学会へ提言を行う。

(4) 通信ソサイエティ Welcome Party

ソサイエティ大会活性化に向けた一企画として，通信ソサイエティの会員，特に学生会員や若手社員が気楽に集まり歓談できる場を提供すべく，ソサイエティ大会初日に第一回通信ソサイエティ Welcome Partyを開催した。Partyでは，情報通信産業で活躍されている13名の若手研究者から情報通信産業の魅力をアピールして頂く企画なども実施した。Party後に頂いたフィードバックは，今後の企画に生かしていく。

(5) 新コンテンツサービス

昨年度実施した会員サービスアンケートの要望に基づき，総合大会及びソサイエティ大会の講演論文集をWeb上で閲覧できる「CSアーカイブス」サービスを検討し，開発に着手した。本サービス実施は大会委員会にて了承され，2009年5月よりサービス開始予定である。更に，コンテンツ拡充に向けて，チュートリアル資料やパネルディスカッション資

料のアーカイブ化について，検討を進めた。

(6) 通信ソサイエティマガジン

マガジン創刊より2年が経過し，3年目となる2009年夏号より編集会社を変更する。これにより，表紙のデザイン等がリニューアルされ，更に，編集経費の削減が図られる。経費削減を図る一方で，新企画を立案し，内容の更なる充実を目指している。

(7) 通信ソサイエティ論文賞

通信ソサイエティ論文賞として2007年4月から2008年3月発行の和英論文誌に掲載された論文の中から，優秀論文賞4編，チュートリアル論文賞1編，Best Paper Award 3編，Best Letter Award 0編（該当なし），Best Tutorial Award 2編の計10編を選定し，ソサイエティ大会総会で表彰式を行った。

また，これとは別に，和文論文誌編集委員会では学生等の若手研究者の研究活性化を図るため，学生論文特集号を企画し，掲載された論文40編の中から優秀な論文3編を選定し表彰した。

(8) 国際関連

シスターソサイエティであるドイツ電子情報系学会(VDG-ITG)との覚書再締結を実施した。中国CICとはシスターソサイエティMOUを締結し，双方の交流を進めていくことになった。また，通ソメーリングリスト及びIEEE ComSocの双方のメーリングリストを使った会員サービス(CFPや論文誌の目次の配信)，Global News Letterの発行を継続して実施した。

(9) 国際会議に関する事項

通信ソサイエティ主催で4件，通信ソサイエティ共同主催で2件，通信ソサイエティの研究会共催で1件の国際会議を開催した。また，通信ソサイエティとして8件，通信ソサイエティの研究会として5件の国際会議に対して協賛を行った。

◎ エレクトロニクスソサイエティ

2008(平成20)年度は，独立採算下における効率的なソサイエティ運営を目的に，全体会議である運営委員会(委員数56名)を年1回開催として，少人数(18名)により構成される執行委員会を年5回開催して，通常のエレソ事業活動の状況把握及び意思決定の機動性向上を図った。更に，執行委員会の傘下に設置した「企画会議」，「編集出版会議」，「研究技術会議」の3会議体制を中心に，ソサイエティ活性化に向けて新施策の検討及び具体化を進めてきた。ソサイエティの主な活動を，三つの会議ごとに以下に示す。

1. 企画会議

(1) 予算：将来の新公益法人認定に向けた会計基準のため，平成20年度末決算より国際会議及び研究専門委員会の収入・支出，収支差を本会の基本会計に組み入れることとし，平成20年度国際会議の活動及び収支，並びに研究専門委員会の平成21年度予算の集計を，研究専門委員会・研究技術会議の協力のもとで新たに実施した。また，エレソの更なる活性化に向けてエレソ独自の施策を立案実施する目的で使用できる「その他事業費」枠の充実を図り，特に，学生奨励賞，技術コンテンツの作成，技報の電子アーカイブ化など会員サービスに向けた企画に予算を重点的に配分した。更に，エレソの運営効率化を図るための「執行委員会資料閲覧システム構築」予算枠を新たに設けた。

- (2) 顕彰：学生会員活性化を目的としたエレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞を継続して大会ごとに実施し、今年度計12名の表彰を行った。更に、エレクトロニクスソサイエティ会長特別表彰制度の新規創設について議論を開始した。
- (3) 広報：エレス会員向けビデオコンテンツの作成を開始し、大会エレスプレナリーセッション、及びエレス材料・デバイスサマーマーケティングの特別講演、計4件の配信を行った。更に、過去の運営委員会・執行委員会で議論した内容を検索可能にする「執行委員会資料閲覧システム」を構築した。今後、運営委員会内の情報共有と会議の効率化に活用する。

2. 編集出版会議

- (1) エレス活性化予算として、掲載料の各種減額・免除、英文品質チェック、IEICE Electronics Express (ELEX) 宣伝パンフレットの作成などを提案し、実行に移している。
- (2) 電子ジャーナル形態に移行した和文論文誌及び英文論文誌の望ましい著者負担のあり方について議論を開始した。今後、検討結果をまとめ、他のソサイエティにも提案を行う予定。
- (3) 和文誌500号記念特集号及びELEX創刊5周年記念特集号企画を推進した。発行及び配布にはエレス活性化予算を活用する予定である。
- (4) 英文誌の「Letter」の位置付けを明確化するために、同誌に「Brief paper」という論文種別を新設し投稿受付を開始した。
- (5) ELEXについては、インパクトファクター取得を促して発行までの早さ・質・オープンアクセスを強みとして国際的認知度向上を推進した。

3. 研究技術会議

- (1) 研究専門委員会：エレスの根幹を成す13の第一種研究専門委員会と12の時限(第二種)研究専門委員会が活発な研究活動を行った。また、2008年度よりエレス主催の国際会議であるAPMC、MWPの国内委員会委員長を正式メンバーとした。
- (2) 国際会議：主催・共催3件及び協催(技術共催)・協賛案件9件を開催した(2008年6月～2009年5月)。
- (3) 2008(平成20)年ソサイエティ大会(明大)では一般講演386件に加えて、シンポジウム講演67件(通ソとエレス共催企画17件含む)、ソサイエティ特別企画2セッション、チュートリアル2セッション、依頼シンポジウム1セッションを実施した。特にマイクロ波、光エレクトロニクス、集積回路等を含む様々なエレクトロニクス分野において情報通信社会の高度化を支えるデバイス技術に関する企画や発表が多く行われた。ソサイエティ特別企画「ミリ波実用化に向けたデバイス・回路・システム技術の現状と将来」、チュートリアルセッション「ヘテロジニアス・インテグレーション技術の現状と展望」など興味深い企画も充実し、多くの聴衆を集めた。
- (4) 研究会活性化基金を運用して超伝導研究専門委員会で国際超電導シンポジウムを利用した海外研究者の招待講演会が開催された。超伝導分野で著名な2名の海外研究者を招き、日米のプロジェクトに関する招待講演やパネル討論会が行われ、通常よりも多くの参加者とパネル討論の時間が大きく不足するくらいの熱心な

議論が行われた。このほかに6件の活性化基金を利用した企画を承認した。

- (5) リーダーズ・ミーティング(研専幹事意見交換会)を平成20年7月16日に行った。研究専門委員会運営にかかわる幹事、幹事補佐に参加してもらい、各会議から研究専門委員会に関する主要な伝達事項の説明を行い、交流を深めた。

2009(平成21)年度は、3会議体制を維持しつつ様々な新施策の実行を行い、その効果と課題を常にチェックしながら「理想のソサイエティ」活動に向けて迅速かつ的確に対応するよう取り組んでいきたい。

◎ 情報・システムソサイエティ

情報・システムソサイエティは、他ソサイエティと同様に論文誌を電子ジャーナル化するとともに、一層積極的な研究会活動を行い、ソサイエティ独立採算への実行段階に入った。

北九州学術研究都市で開催された2008年総合大会では、ソサイエティ企画4件(企画セッション1件、パネルセッション1件、チュートリアルセッション1件及び学生ポスターセッション1件)、また愛媛大学で開催された2009年総合大会では、ソサイエティ企画2件(企画セッション1件及び学生ポスターセッション1件)を企画するなど、ソサイエティ活動の可視化に努めた。特に学生ポスターセッションでは情報・システム分野以外の発表も積極的に受け入れた。また、2009年総合大会の懇親会において情報・システムソサイエティの学術奨励賞(9名)の授賞式が行われた。

ソサイエティ大会(ISS/HCG)と情報処理学会(IPSJ)の秋の全国大会を統合したFIT2008(情報科学技術フォーラム)は、平成20年9月2日から3日間、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで開催された。参加者は講演者670名、一般聴講者584名、その他イベント講演者、招待者等の総参加者数1,455名であった(昨年中京大学豊田キャンパスで開催されたFIT2007での参加者は1,806名であった)。また、収支については査読付き論文が減少したことにより若干の赤字となったが全体として成功であったといえる。また、メイン会場での川人光男氏の特別講演(ブレイン・ネットワーク・インターフェース(BNI)技術の最前線、9/3)には、会場が満員となる300名の参加者があり、その他多くのパネル討論や各イベント会場も多く参加者であふれ、魅力ある企画が多く見られた。次回(FIT2009)は、会場を東北工業大学八木山キャンパスに移して行う予定(平成21年9月2日～4日)である。また、例年どおり、船井業績賞、船井ベストペーパー賞、FIT論文賞、FITヤングリサーチアワードを選定・表彰した。

主な活動は以下のとおりである。

(1) 選奨に関する活動

ISSでは、ソサイエティの独立性、活性化を図る施策として、サーベイ論文、先見論文、連作論文を選定対象とするソサイエティ論文賞を設立している。また、ソサイエティの活動について顕著な功績があった人々、例えば多数の論文査読を行った査読委員等を対象とした活動功労賞も設定している。平成20年度は論文賞1編7名、功労賞11名を選定し、東京で授賞式を行った(平成20年12月2日)。

(2) 第9回フェロー称号贈呈式及び第10回フェロー候補者審議

第9回(平成20年度)フェロー称号贈呈式を上記授賞式と同じ日(12/2)に東京で行い、本部宮原会長から12名の方々

にフェロー称号を贈呈した。第10回(平成21年度)フェローについては、ISSフェロー推薦委員会において推薦があった候補者の審議を開始した。

(3) 財務基盤の改善検討

ISSソサイエティは、論文誌関連の経費削減、総合大会・FITの収支構造、技術研究報告予約価等について検討を行い、引き続きISS財務基盤を強化した。

(4) 国際活動の積極的な推進

- ・韓国 KIISE (Korean Institute of Information Scientists and Engineers)との継続提携を更新した。(平成20年2月)
- ・IEEE及びIEEE-CSと提携に関する協定書の継続を取り交わした(平成20年11月)。

◎ ヒューマンコミュニケーショングループ

平成20年度は、ヒューマンコミュニケーション基礎研究会(HCS)、ヒューマン情報処理研究会(HIP)、マルチメディア・仮想環境基礎研究会(MVE)、福祉情報工学研究会(WIT)の四つの第一種研究会、Webインテリジェンスとインタラクティブ研究会(WI2)、脳情報通信研究会(BICT)、身体性情報学研究会(IEB)の三つの第二種研究会、及び、ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション研究会(VNV)、料理メディア研究会(CM)、人間とICT倫理研究会(EHI)の三つの第三種研究会による体制により活発な活動を展開した。更に、第二種研究会として発達障害支援研究会(ADD)が新たに設立された。

前年度に引き続き、次の取組みを行った。HCS、HIP、MVE、WITは各々5～6回の研究会を開催した。情報科学技術フォーラム(FIT2008)においても主催者側として努力した。WI2は3回の研究会を開催し、IEEE SMC Organized session(10/12-15)を行った。BICTは2回のワークショップを開催、IEBは3回のシンポジウムを開催した。VNVは4回の研究会を開催した。EHIは、3回の研究会を開催した。

平成20年度ヒューマンコミュニケーション(HC)賞の選定と表彰を行った。本賞は、第一種研究会の発表から、50件に1件を目安に、各研究会で組織したHC賞審査委員会において選考した。本年度はHCGホームページに記載されたように、計6件の発表についてHC賞を授与することにした。

従来まで春の総合大会に合わせて近接会場で実施していたHCGシンポジウムを本年度は開催地を離れて3月23日(月)～25日(水)に島根大学(松江キャンパス)で行った。HCG傘下の合計七つの研究会(第二種研究会、第三種研究会も含む)が参加して、研究発表やオーガナイズドセッションを行った。また、シンポジウムの特別企画として、二つの招待講演会「オブジェクト指向スクリプト言語「Ruby」の開発」(講演者:まつもと ゆきひろ(ネットワーク応用通信研究所))、「エンタテインメント工学:心を豊かにする科学技術の創生」(講演者:稲見昌彦(慶大)、苗村健(東大))とパネル討論「HC研究の過去・現在・未来～MVE研の事例から～」を実施して、多くの聴衆を集めた。

HCGニューズレターを20年9月と21年4月の2回発行した。

平成20年度の重点的な取組みとして、(1)HCGの活動が一層見えるように、また、グループ傘下の各研究会の交流をより一層深めるために、HCGシンポジウム企画の見直しを行い、春の総合大会とは会場を離れて独自開催の試みを行った、(2)他学会や他コミュニティとの横断的な連携をこれま

で以上を進めるため、新規分野の開拓に努め、その結果、ADD研究会が新たに設立されたことが挙げられる。

1. 大会に関する事項(定款 第6条ロ)

1.1 総合大会

下記の期日・会場において4ソサイエティ(ヒューマンコミュニケーショングループは基礎・境界ソサイエティに含まれる)が合同して開催した。

1.1.1 2008年総合大会

期日 平成20年3月18日(火)～21日(金)
会場 北九州学術研究都市 三大学(九州工業大学・北九州市立大学・早稲田大学)合同

参加者 5,112名

懇親会 北九州学術研究都市内 食堂「カフェテリア」

参加者 201名

(a) 企画セッション数

企画種別	大会委員会	ソサイエティ				合計(実数)
		基礎・境界	通信	エレクトロニクス	情報・システム	
大会委員会セッション	6	—	—	—	—	6
ソサイエティ特別企画セッション	—	2*	1	2*	2	6
パネルセッション	—	2※	7	2※	1	11
チュートリアルセッション	—	1	5	4	1	11
依頼シンポジウムセッション	—	1	—	—	—	1
合計(共催を含む)	6	6	13	8	4	35

* ※ 基礎・境界とエレクトロニクスの共催企画1件を含む。

(b) 公募セッション講演数

	ソサイエティ				合計(実数)
	基礎・境界	通信	エレクトロニクス	情報・システム	
一般セッション	357	1,270	505	527	2,659
シンポジウムセッション	40	101	63	43	247
合計	397	1,371	568	570	2,906

1.1.2 2009年総合大会

期日 平成21年3月17日(火)～20日(金)

会場 愛媛大学 城北地区(松山市)

参加者 4,917名

懇親会 愛媛大学 大学会館「生協城北食堂」参加者 248名

(a) 企画セッション数

企画種別	大会委員会	ソサイエティ				合計(実数)
		基礎・境界	通信	エレクトロニクス	情報・システム	
大会委員会セッション	6	—	—	—	—	6
ソサイエティ特別企画セッション	—	1	0	1	1	3
パネルセッション	—	3※	8※	2	0	12
チュートリアルセッション	—	1	7	2	0	10
依頼シンポジウムセッション	—	2	*3	*3	1	8
合計(共催を含む)	6	7	18	8	2	39

* ※ 基礎・境界と通信の共催企画1件を含む。

* 通信とエレクトロニクスの共催企画1件を含む。

(b) 公募セッション講演数

	ソサイエティ				合計 (実数)
	基礎・境界	通信	エレクトロニクス	情報・システム	
一般セッション	364	1,323	466	488	2,641
シンポジウムセッション	†30	131	†69	†46	257
合計	394	1,454	535	534	2,898

† 基礎・境界と情報・システムの共催企画10件を含む。
‡ エレクトロニクスと情報・システムの共催企画9件を含む。

1.2 ソサイエティ大会

下記の期日・会場において基礎・境界、通信、エレクトロニクスの3ソサイエティが合同して開催した。

期日 平成20年9月16日(火)～19日(金)

会場 明治大学 生田キャンパス(川崎市)

参加者 3,187名

懇親会 明治大学スクエア21 食堂「HILLS」参加者142名

(a) 企画セッション数

企画種別	大会委員会	ソサイエティ			合計 (実数)
		基礎・境界	通信	エレクトロニクス	
大会委員会セッション	3	—	—	—	3
ソサイエティ特別企画セッション	—	2	4	2	8
パネルセッション	—	2*	4*	0	4
チュートリアルセッション	—	3	4	2	9
依頼シンポジウム	—	1	2*	1*	3
合計	3	8	14	7	27

* 基礎・境界と通信の共催企画2件を含む。
* 通信とエレクトロニクスの共催企画1件を含む。

(b) 公募セッション講演数

	ソサイエティ			合計 (実数)
	基礎・境界	通信	エレクトロニクス	
一般セッション	181	847	386	1,414
シンポジウムセッション	3	151†	67†	204
合計 (共催を含む)	184	998†	453†	1,618

† 通信とエレクトロニクスの共催企画17件を含む。

1.3 FIT2008(第7回情報科学技術フォーラム)

下記の期日・会場において情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ及び情報処理学会が合同して開催した。

期日 平成20年9月2日(火)～4日(木)

会場 慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス(藤沢市)

参加者 1,455名

懇親会 同キャンパス内 Σ館B1階 生協食堂・South Wing 参加者65名

イベント企画	研究会提案企画	13 課題
	委員会提案企画	3 課題
	現地提案企画	3 課題
船井ベストペーパー賞選考会		6 講演
査読付き論文		71 講演
一般講演		651 講演

2. 国際会議に関する事項(定款 第6条ロ,チ)

次のとおり開催した。

会議名	開催年月日	参加者数	論文数	場所	
7th Asia-Pacific Symposium on Information and Telecommunication Technologies (AP SITT2008)	2008.4.22～24	90	45	Bandos Island, Maldives	CS
3rd Pan-Pacific EMC Joint Meeting (PPEMC'08)	2008.5.15～16	72	16	東京	CS
The 5th International Symposium on Organic Molecular Electronics (ISOME2008)	2008.5.22～23	40	32	兵庫	ES
The 23rd International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC 2008)	2008.7.6～9	512	461	下関	ESS
International Conference on Photonics in Switching 2008 (PS2008)	2008.8.4～7	158	122	札幌	CS
2008 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA 2008)	2008.9.7～10	193	196	Budapest, Hungary	ESS
2008 China-Japan Joint Microwave Conference (CJMW 2008)	2008.9.10～12	243	201	Shanghai, China	ES
2008 The International Conference on the Optical Internet (COIN2008)	2008.10.14～16	116	86	東京	CS
The 14th Asia-Pacific Conference on Communications (APCC2008)	2008.10.14～17	250	203	東京	CS
Asia-Pacific Network Operations and Management Symposium (APNOMS2008)	2008.10.22～24	90	77	Beijing, China	CS
The Seventeenth Asian Test Symposium (ATS'08)	2008.11.24～27	166	67	札幌	ISS
International Workshop on Security (IWSEC2008)	2008.11.25～27	72	18	高松	ESS
The Ninth Workshop on RTL and High Level Testing (WRTL'08)	2008.11.27～28	66	22	札幌	ISS
International Forum on Medical Imaging in Asia (IFMIA'09)	2009.1.19～21	206	145	Taipei, Taiwan	ISS
Asia and South Pacific Design Automation Conference (ASP-DAC 2009)	2009.1.26～29	531	355	横浜	ESS
The 9th International Symposium on Autonomous Decentralized Systems (ISADS2009)	2009.3.23～25	120	60	Athens, Greece	CS

3. 出版に関する事項(定款 第6条イ)

3.1 和文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別(A・B・C・D)に4種類をオンラインジャーナルで公開し、オプションとして冊子体を次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は6,728ページである。

分類	論文	レター	その他	計	特集回数 回	発行部数 (冊子体) 部
	件数 ページ数	件数 ページ数	件数 ページ数	件数 ページ数		
A	69	54	—	123	3	11,900
	688	276	158	1,122		
B	178	34	—	212	6	12,600
	1,816	140	156	2,112		
C	65	22	—	87	2	11,300
	549	66	143	758		

D	215	70	—	285	5	13,600
	2,311	243	182	2,736		
計	527	180	—	707	16	49,400
	5,364	725	639	6,728		

*その他：総目次 61 ページ、巻頭言 24 ページ、英文誌紹介 125 ページ、特集号募集案内等付物 429 ページ

3.2 英文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別 (A・B・C・D) に 4 種類をオンラインジャーナルで公開し、オプションとして冊子体を次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は 13,044 ページである。

分 冊 分 類	Paper	Letter	その他	計	特集回数	発行部数 (冊子体)
	件 数 ページ数	件 数 ページ数	— ページ数	件 数 ページ数	回	部
A	368	135	—	503	15	10,800
	3,264	550	186	4,000		
B	341	240	—	581	12	11,200
	3,143	965	192	4,300		
C	244	53	—	297	15	11,000
	1,730	185	141	2,056		
D	235	88	—	323	7	10,100
	2,182	341	165	2,688		
計	1,188	516	—	1,704	49	43,100
	10,319	2,041	684	13,044		

*その他：総目次 144 ページ、Abstract 160 ページ、Foreword 66 ページ、特集号募集案内等付物 314 ページ

3.3 電子ジャーナル

エレクトロニクスソサイエティでは、Web を用いたペーパーレス研究速報英文論文誌「IEICE Electronics Express (略称 ELEX)」(月 2 回発行) に 199 件、1,243 ページを掲載した。平成 20 年 6 月に初のインパクトファクターが付与された。

3.4 ニュースレター、ソサイエティ誌の発行状況

各ソサイエティ及びグループでは活動の一環としてニュースレター、ソサイエティ誌を下記のとおりに発行した。

- (1) 基礎・境界ソサイエティ
ソサイエティ誌 (Fundamentals Review)
4 回 376 ページ
- (2) 通信ソサイエティ
マガジン誌 (通信ソサイエティマガジン)
4 回 288 ページ
Global News Letter 4 回 66 ページ
- (3) エレクトロニクスソサイエティ
ニュースレター 4 回 36 ページ
- (4) 情報・システムソサイエティ
ニュースレター 5 回 108 ページ
- (5) ヒューマンコミュニケーショングループ
ニュースレター 2 回 8 ページ

3.5 IEICE Transactions Online

平成 18 年 10 月から特殊員に対してサイトライセンスの試行を行ってきたが、平成 21 年 4 月から本実施に移行するため、3 月末に試行を終了した。

4. 選奨に関する事項 (定款 第 6 条ホ, ヘ)

所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり各受賞者を決定した。

4.1 基礎・境界ソサイエティ

(1) 功労賞

業 績	貢 献 者 (所属)
国際会議 NOLTA'07 General Co-Chair としての貢献	奥村 浩士 (広島工大)
国際会議 IWSEC と運営に関する貢献等	松井 充 (三菱電機)

以上 2 名

(2) 功労感謝状

業 績	貢 献 者 (所属)
回路とシステムワークショップ実行委員長としての貢献等	阿部 正英 (東北大)
信号処理研究会幹事等としての貢献	市毛 弘一 (横浜国大)
英文論文誌編集委員として、迅速かつ多大な編集作業の実行に対する功績	神谷 典史 (NEC)
技術と社会・倫理研究専門委員会の運営と研究会活動の活性化に対する貢献	木下 宏揚 (神奈川大)
英文論文誌編集委員として、迅速かつ多大な編集作業の実行に対する功績	古賀 弘樹 (筑波大)
英文論文誌編集委員として、迅速かつ多大な編集作業の実行に対する功績	竹中 崇 (NEC)
暗号と情報セキュリティシンポジウム実行委員長としての貢献	角尾 幸保 (NEC)
英文論文誌特集号編集幹事としての貢献	花岡 悟一郎
和文論文誌編集委員として、迅速かつ多大な編集作業の実行に対する功績	松元 藤彦 (防衛大)

以上 9 名

4.2 通信ソサイエティ

(1) ソサイエティ論文賞

論 文 名	著 者 名 (所属)
【優秀論文賞】 中間バスを有する電子通信機器用分散給電システムにおける系の安定性について	久永 光司 (NEC インフロンティア) 長尾 道彦 (崇城大) 原田 耕介 (崇城大)
全波整流に基づくステガノグラフィを用いた G.711 音声の帯域拡張法	青木 直史 (北大)
ペンローズタイルを用いた非周期アレーアンテナ	藤方 基 (金沢工大) 片木 孝至 (金沢工大) 別段 信一 (金沢工大) 水澤 丕雄 (金沢工大) 広田 哲夫 (金沢工大) 野口 啓介 (金沢工大)
計算グリッドとデータグリッドを Peer-to-Peer (P2P) 技術で融合したグリッドアーキテクチャシステム開発	上田 清志 (NTT) 須永 宏 (NTT) 岡 利幸 (NTT) 松村 裕亮 (NTT)
【チュートリアル論文賞】 EMC における伝送回路理論とその展開	上 芳夫 (電通大)
【Best Paper Award】 Receiver-Based ACK Splitting Mechanism for TCP over Wired/Wireless Heterogeneous Networks	Go HASEGAWA (阪大) Masashi NAKATA (阪大) Hirofusa NAKANO (阪大)
Detecting and Guarding against Kernel Backdoors through Packet Flow Differentials	Cheolho LEE (ETRI) Kiwook SOHN (ETRI)
Gbit-Class Transmission Using SOA Data Rewriter for WDM-PON	Satoshi NARIKAWA (NTT) Hiroaki SANJOH (NTT エレクトロニクス) Naoya SAKURAI (NTT) Kiyomi KUMOZAKI (NTT)
【Best Tutorial Paper Award】 Prospects and Challenges of Multi-Layer Optical Networks	Ken-ichi SATO (名大) Hiroshi HASEGAWA (名大)
Innovative Antennas and Propagation Studies for MIMO Systems	Yoshio KARASAWA (電通大)

以上 10 編

4.3 エレクトロニクスソサイエティ

(1) ソサイエティ賞

分野	業績	貢献者(所属)
第1分野	SOI-MOSFETのメモリ効果の先駆的研究とキャパシタレスDRAMの提案	佐々木伸夫(シャープ)
第2分野	長波長帯光ファイバ通信用半導体レーザに関する先進的研究貢献	荒井 滋久(東工大)
第3分野	半導体ウエハレベルパッケージ技術に関する先駆的研究	山田 浩(東芝)

以上3件

(2) レター論文賞

論文名	著者名(所属)
ダブルモード型弾性表面波フィルタの斜め放射の解析と抑制	井上 将吾(富士通) 堤 潤(富士通) 松田 隆志(富士通) 上田 政則(富士通) 佐藤 良夫(富士通)

以上1件

(3) ELEX Best Paper Award

論文名	著者名
Depth Profiles of Strain in AlGaIn/GaN Heterostructures Grown on Si Characterized by Electron Backscatter Diffraction Technique	Teruki Ishido Hisayoshi Matsuno Takuma Katayama Tetsuzo Ueda Kaoru Inoue Daisuke Ueda

以上1件

(4) エレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞

分野	講演者(所属)
電磁波・マイクロ波	瀧川 雄介(呉高専) 片貝 陽一(東工大) 中村 真生(防衛大) 二ツ森俊一(北大)
化合物半導体・光エレクトロニクス	朴 熙中(横浜国大) 淵田 歩(東工大) 内田 翔(慶大) 今村 明博(東工大)
シリコン・エレクトロニクス一般	沈 昌勲(九大) 大西 健一(横浜国大) 小籓 達(秋田大) 松原 亮介(千葉大)

以上12件

4.4 情報・システムソサイエティ

(1) ソサイエティ論文賞

論文名	著者名(所属)
【連作論文】 A New Method for Low-Capture-Power Test Generation for Scan Testing	Xiaoqing WEN Yoshiyuki YAMASHITA Seiji KAJIHARA Laung-Terng WANG Kewal K. SALUJA Kozo KINOSHITA
A Novel ATPG Method for Capture Power Reduction during Scan Testing	Xiaoqing WEN Seiji KAJIHARA Kohei MIYASE Tatsuya SUZUKI Kewal K. SALUJA Laung-Terng WANG Kozo KINOSHITA

以上1編

(2) 功労賞

業績	貢献者(所属)
和文論文誌編集委員・編集幹事・編集副委員長としての貢献	宮寺庸造(東京学芸大)
和文論文誌編集委員・査読委員としての貢献	斉藤和巳(静岡県立大)
和文論文誌査読委員としての貢献	堀 修(東芝)
ISS 英文論文誌編集委員としての貢献	越前 功(NII)
ISS 英文論文誌編集委員としての貢献	松尾啓志(名工大)
ISS 英文論文誌編集委員としての貢献	徳田恵一(名工大)
PRMU 研究会・シンポジウム MIRU・FIT・会誌編集への貢献	鷲見和彦(三菱電機)
和文論文誌 D データ工学特集号編集委員としての貢献	國島丈生(岡山県立大)
音声研究専門委員会幹事としての貢献	峯松信明(東大)
ソサイエティ誌編集幹事としての貢献	由良俊介(NTT)
ISS ソサイエティ誌・論文誌編集委員ならびに技術会議幹事としての貢献	松居辰則(早大)

以上11名

4.5 FITの各賞

(情報・システムソサイエティ及びヒューマンコミュニケーショングループと情報処理学会との合同)

(1) 船井業績賞

業績	貢献者(所属)
ブレイク・ネットワーク・インタフェース(BNI)技術の最前線	川人光男(ATR)

以上1件

(2) 船井ベストペーパー賞

論文名	受賞者(所属)
3DCGによる浮世絵構図への変換法	久保友香(東大) 趙 捷(東大) 宇佐美貴徳(東大) 広田光一(東大)
クリックスルーに基づく探検型検索サイトの設計と開発	酒井哲也(ニューズウォッチ) 小山田浩史(ニューズウォッチ) 野上謙一(ニューズウォッチ) 北村仁美(ニューズウォッチ) 梶浦正浩(ニューズウォッチ) 東美奈子(ニューズウォッチ) 野中由美子(ニューズウォッチ) 小野雅也(ニューズウォッチ) 菊池 豊(ニューズウォッチ)
ブロック歪みを考慮した時空間コントラスト感度特性に基づくH.264/AVC符号化器設計	坂東幸浩(NTT) 早瀬和也(NTT) 高村誠之(NTT) 上倉一人(NTT) 八島由幸(NTT)

以上3編

(3) FIT論文賞

論文名	受賞者(所属)
ソフトウェア不正コピー対策のためのLANアクセス制御システム	山本 賢(岡山大) 岡山聖彦(岡山大) 山井成良(岡山大)
LiNeSにおける仮想ネットワーク間接続機能の開発と実用可能性の検討	立岩佑一郎(名大) 安田孝美(名大)
A Counting-Based Approximation of the Distribution Function of the Longest Path Length in Directed Acyclic Graphs	安藤 映(九大) 小野廣隆(九大) 定兼邦彦(九大) 山下雅史(九大)

以上3編

(4) FIT ヤングリサーチャー賞

候補者名	所属	講演番号	講演タイトル
加来史也	同志社大	A-014	実業務環境における色温度制御機構を組み込んだ知的照明システムの構築
安藤 映	九大	RA-003	A Counting-Based Approximation of the Distribution Function of the Longest Path Length in Directed Acyclic Graphs
金子晴彦	東工大	RC-012	フラッシュメモリを用いた大容量 SSD のための2段階誤り制御符号
明山寛史	鳥取大	C-025	ネットワークから制御可能な多機能コンセント
藤巻遼平	NEC	F-022 F-042	異常検出サポートベクトルマシンノード重要度を考慮したグラフ分割構造の学習
栗野直之	阪工大	I-029	点群データを用いた点描レンダリング
松尾康孝	NHK	I-089	時空間 Wavelet Shrinkage による高精細動画の雑音除去法の検討
大竹 剛	NHK	L-006	双方向放送サービスのための効率的なプロバイダ認証
綾木良太	同志社大	RM-003	Java バイトコード変換による組み込み機器連携システムの提案
菊地卓也	仙台電波高専	RN-002	中学生対象コンピュータグラフィックス作成支援システムの開発と教育実践

以上10名

5. 研究会等に関する事項 (定款 第6条ロ, ハ)

5.1 基礎・境界ソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。
研究専門委員会：41回 第一種研究会：103回 (うち地方開催64回)

また、第二種研究会、第三種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

注：研究会開催数の()内は地方支部等での開催数

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
回路とシステム	田村 裕	5 (5)	142
情報理論	高田 豊雄	5 (3)	131
信頼性	柳 繁	8 (5)	58
超音波	野村 徹	11 (4)	103
応用音響	浅野 太	11 (8)	147
非線形問題	太田 有三	8 (7)	178
VLSI設計技術	若林 一敏	6 (5)	168
情報セキュリティ	太田 和夫	6 (3)	189
信号処理	飯國 洋二	8 (7)	205
ワイドバンドシステム	原 晋介	5 (3)	143
コンカレント工学	葛 崎偉	4 (3)	57
思考と言語	野本 忠司	5 (2)	59
技術と社会・倫理	鶴原 稔也	5 (2)	96
安全性	中村 英夫	6 (1)	38
ITS	伊丹 誠	6 (3)	95
スマートインフォメディアシステム	田口 亮	4 (3)	90
合計		103 (64)	1,899

5.2 通信ソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。
研究専門委員会：60回 第一種研究会：132回 (うち地方開催87回)

また、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
アンテナ・伝播	堀 俊和	11 (7)	250
宇宙・航行エレクトロニクス	小菅 義夫	10 (4)	130
衛星通信	篠永 英之	5 (3)	71
環境電磁工学	井上 浩	10 (5)	128
ネットワークシステム	山本 幹	9 (8)	234
情報ネットワーク	森川 博之	10 (8)	223
通信方式	石原 智宏	7 (7)	118
電子通信エネルギー技術	山下 隆司	6 (2)	82
光通信システム	山林 由明	7 (6)	123
無線通信システム	佐和橋 衛	9 (6)	291
コミュニケーションクオリティ	石橋 豊	5 (5)	73
フォトリソグラフィ	中野 義昭	6 (5)	104
光ファイバ応用技術	加島 宜雄	6 (4)	101
情報通信マネジメント	宇野 浩司	5 (5)	91
モバイルマルチメディア通信	智之 智之	6 (4)	95
インターネットアーキテクチャ	山崎 克之	6 (2)	122
ソフトウェア無線	高田 潤一	5 (2)	111
アドホックネットワーク	阪田 史郎	5 (2)	77
ユビキタス・センサネットワーク	大橋 正良	4 (2)	93
合計		132 (87)	2,517

5.3 エレクトロニクスソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。
研究専門委員会：27回 第一種研究会：107回 (うち地方開催59回)
また、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
機構デバイス	長瀬 亮	11 (4)	152
磁気記録・情報ストレージ	中川 茂樹	7 (5)	69
超伝導エレクトロニクス	田辺 圭一	4 (0)	43
電子ディスプレイ	奥村 治彦	7 (1)	92
電子デバイス	葛原 正明	9 (8)	249
電子部品・材料	上村 喜一	9 (6)	142
電磁界理論	田中 充	4 (4)	156
シリコン材料・デバイス	渡辺 重佳	11 (6)	243
マイクロ波	橋本 修	10 (7)	213
集積回路	松澤 浩	7 (3)	153
有機エレクトロニクス	工藤 一浩	11 (6)	112
光エレクトロニクス	日比野善典	10 (4)	205
レーザ・量子エレクトロニクス	中野 義昭	7 (5)	186
合計		107 (59)	2,015

5.4 情報・システムソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。
研究専門委員会：40回 第一種研究会：117回 (うち地方開催84回)
また、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
MEとバイオサイバネティクス	富田 豊	9 (8)	134
オフィスインフォメーションシステム	力宗 幸男	6 (5)	94
画像工学	八島 由幸	10 (9)	266
言語理解とコミュニケーション	井ノ上直己	4 (2)	82
コンピュータシステム	末吉 敏則	7 (5)	105
コンピューテーション	徳山 豪	7 (5)	63
人工知能と知識処理	北村 泰彦	6 (3)	96
ソフトウェアサイエンス	鯉坂 恒夫	5 (4)	58
データ工学	川越 恭二	3 (2)	79
パターン認識・メディア理解	馬場口 登	9 (6)	296
ディメンダブルコンピューティング	相京 隆	8 (4)	96
ニューロコンピューティング	阪口 豊	8 (7)	180
知能ソフトウェア工学	大西 淳	5 (4)	64
音声	小林 隆夫	8 (6)	153
教育工学	横山 節雄	9 (7)	131

医用画像	藤田 広志	5 (4)	202
ソフトウェアインタプライズモデリング	松田 順	4 (0)	31
リコンフィギャラブルシステム	天野 英晴	4 (3)	89
合 計		117 (84)	2,219

5.5 ヒューマンコミュニケーショングループ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：12回 第一種研究会：23回（うち地方開催18回）

また、第二種研究会及び第三種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
ヒューマンコミュニケーション基礎	武川 直樹	5 (4)	80
ヒューマン情報処理	喜多 伸一	6 (5)	158
マルチメディア・仮想環境基礎	中村 裕一	6 (5)	123
福祉情報工学	中山 剛	6 (4)	87
合 計		23 (18)	448

6. データベースに関する事項（定款 第6条ハ、チ）

国立情報学研究所（NII）並びに、科学技術振興機構（JST）のデータベース作成に次のとおり協力した。

電子図書館（NII）：発行から2年遅れで全文公開

学会誌、和・英論文誌、技術研究報告、総合大会発表論文、ソサイエティ大会発表論文

J-STAGE（JST）：抄録のみ公開

学会誌、和文論文誌、技術研究報告、総合大会発表論文、ソサイエティ大会発表論文

※英文論文誌は平成21年1月号から全文公開を開始した。

7. ソサイエティ及びグループ会員に関する事項（定款 第3章）

各ソサイエティ及びグループにおける会員数は次のとおりである。

上段：年度末会員数（ ）内はフェロー会員数

下段：年度末会員数（当年度会費未納者を除く）

	ESS	CS	ES	ISS	HCG	合 計
平成19年度 末登録数	7,057(112) 6,705	13,015(187) 12,347	7,532(135) 7,239	12,170(173) 11,559	995 977	40,769(607) 38,827
平成20年度 末登録数	7,005(120) 6,623	13,066(217) 12,170	7,355(138) 7,014	12,239(181) 11,436	999 981	40,664(656) 38,224
前年度との 差	-52(8) -82	51(30) -177	-177(3) -225	69(8) -123	4 -4	-105(49) -603

(注) ESS：基礎・境界ソサイエティ、CS：通信ソサイエティ、ES：エレクトロニクスソサイエティ、ISS：情報・システムソサイエティ
HCG：ヒューマンコミュニケーショングループ

Ⅲ. 支 部 事 業

各支部において、講演会、講習会、見学会、大会等を次のとおり開催した。

1. 北海道支部

講演会	5回	学生会講演会	4回
支部連合大会	1回	学生会見学会	2回
研究会	48回		

2. 東北支部

学術講演会	10回	先端技術シンポジウム	1回
特別講演会	4回	支部連合大会	1回
地区講演会	1回	研究会	42回
専門講習会	1回	学生向け事業	3回

3. 東京支部

講演会	5回	研究会	170回
シンポジウム	4回	学生会講演会	2回
地域イベント	2回	学生会見学会	2回
見学会	2回	学生会研究発表会	1回
教育活動	17回	学生会報の発行	1回

4. 信越支部

講演会	7回	支部大会	1回
専門講習会	1回	研究会	8回
見学会	3回		

5. 東海支部

講演会	5回	研究会	39回
専門講習会	1回	学生会講演会	7回
見学会	1回	学生会見学会	2回
支部連合大会	1回		

6. 北陸支部

特別講演会	1回	研究会	18回
講演会	7回	学生会講演会	7回
支部連合大会	1回	学生研究発表会	1回
専門講習会	1回	学生会見学会	1回

7. 関西支部

講演会	1回	研究会	47回
中高生向け講演会	1回	情報通信技術講座	5回
専門講習会	2回	学生見学会	1回
見学会	1回	学生会研究発表会	1回
支部連合大会	1回		

8. 中国支部

講演会	17回	研究会	9回
専門講習会	1回	学生向け講演会	1回
支部連合大会	1回		

9. 四国支部

講演会	29回	学生会講演会	16回
専門講習会	3回	学生会展示会	4回
支部連合大会	1回	学生会見学会	1回
研究会	12回		

10. 九州支部

特別講演会	1回	研究会	69回
講演会	6回	学生会講演会	1回
専門講習会	1回	学生会見学会	1回
支部連合大会	1回		

役員、評議員及び代議員の改選結果報告

平成 21 年度の役員、評議員、代議員の改選は所定の手続きによって行われた。平成 21 年 2 月 9 日に正員に投票を依頼し、3 月 2 日に締め切り、その開票結果を理事会に諮り当選者を決定した。この結果、理事宮原秀夫、津田俊隆、伊藤弘昌、坂庭好一、高橋達郎、山本浩治、西原明法、花澤 隆、羽鳥光俊、小林欣吾、間瀬憲一、河内正夫、畑岡信夫、及び監事平田康夫は退任することになり、新たに津田俊隆、原島博、小柴正則、中沢正隆、桑原秀夫、三宅 功、大石進一、安達文幸、三木哲也、松嶋敏泰、並木淳治、板屋義夫、横矢直和が理事に、羽深龍二が監事に就任することになった。

また、役員・評議員は選出代議員となる。

なお、本日の通常総会において退任、留任、新任される役員・評議員・代議員は次のとおりである。

役 職 名	退 任	留 任	新 任
会 長	宮原 秀夫		青山 友紀
次 期 会 長	青山 友紀		津田 俊隆
副 会 長 (在京)	津田 俊隆	広崎 彰太郎	原島 博
副 会 長 (地方)	伊藤 弘昌	吉田 進	小柴 正則
総 務 理 事	坂庭 好一	村田 正幸	中沢 正隆
会 計 理 事	高橋 達郎	秋葉 重幸	桑原 秀夫
編 集 理 事	山本 浩治	田中 良明	三宅 功
画 理 事	西原 明法	大村 佳久	大石 進一
調 査 理 事	花澤 隆	山田 敬嗣	安達 文幸
編 集 長 (理事)		酒井 善則	
画 室 長 (理事)		持田 侑宏	
規格調査会委員長 (理事)	羽鳥 光俊		三木 哲也
ESS 会長 (理事)	小林 欣吾	香田 徹	松嶋 敏泰
CS 会長 (理事)	間瀬 憲一	澤谷 邦男	並木 淳治
ES 会長 (理事)	河内 正夫	益 一哉	板屋 義夫
ISS 会長 (理事)	畑岡 信夫	大田 友一	横矢 直和
監 事	平田 康夫	正村 達郎	羽深 龍二
評 議 員 (在京)	尾上 誠蔵	梅比良正弘	大森 慎吾
〃	桑原 秀夫	江村 克己	唐沢 好男
〃	阪田 史郎	斎藤 洋	河村 仙志
〃	土井美和子	中嶋 信子	喜連川 優
〃	三宅 功	松井 知子	村瀬 淳
評 議 員 (地方)	生越 重章	尾家 祐二	大橋 正良
〃	木戸出正継	大柴小枝子	三瓶 政一
〃	小柴 正則	北山 研一	白鳥 則郎
〃	白鳥 則郎	根元 義章	守倉 正博
〃	安浦 寛人	松永真由美	安浦 寛人
評 議 員 (会長指名)	荒川 薫	浅見 徹	荒川 薫
〃	古池 進	石塚 勝	古池 進
〃	小館香稚子	計 宇生	田中 豊
〃	菅原 一孔	小林 岳彦	趙 晋輝
〃	田中 豊	一村 信吾	土井美和子
〃	趙 晋輝	(小林 直人)	
〃	富田 義数	佐藤 健一	富田 義数
〃	林 秀樹	関根 好文	林 秀樹
〃		田辺 史朗	福沢 恵司
〃	福沢 恵司	久保田啓一	村上 篤道
〃		(谷岡 健吉)	
〃	李 可人	山内 良三	ZHISHENG NIU

評議員	北海道支部長	*小柴 正則	戸島 秀喜
〃	東北支部長	*白鳥 則郎	*澤谷 邦男
〃	東京支部長	荒木 純道	篠原 弘道
〃	信越支部長	宮澤 正幸	角山 正博
〃	東海支部長	中川 聖一	平田 富夫
〃	北陸支部長	福田 一郎	太田 聡
〃	関西支部長	加藤 雅敏	湊 小太郎
〃	中国支部長	森川 良孝	菅原 一孔
〃	四国支部長	木内 陽介	岩下 克幸
〃	九州支部長	山下 雅史	山崎 正幸
評議員 (学生会顧問)			
〃	北海道支部	鈴木 正清	岡本 淳
〃	東北支部	佐藤 公男	神原 利彦
〃	東京支部	藤井 威生	田中 聡久
〃	信越支部	柄沢 直之	山崎 克之
〃	東海支部	杉浦 敏文	岩波 保則
〃	北陸支部	八木 聡	角 俊雄
〃	関西支部	南 谷行	近藤 正彦
〃	中国支部	片桐 英樹	末松 伸朗
〃	四国支部	都築 伸二	久保 智裕
〃	九州支部	末次 正	淡野 公一

備考：() 内は年度の途中において交代した前任者を示す。

注意：*印は既に選挙で選出された理事または評議員であるため、会長指名評議員にはしない者。

役 職 名	退 任	留 任	新 任
互選代議員	浅野 敏郎	芥川 正武	安達 淳
〃	荒川 賢一	石黒 義英	伊藤 哲郎
〃	伊藤 哲郎	泉田喜一郎	井上 浩
〃	宇野 健	伊藤 建一	宇津呂武仁
〃	大崎 淳	井原 武	榎木 孝知
〃	楯 勇一	植田 和憲	大塚 作一
〃	加藤 浩介	内田 誠一	大橋 正良
〃	河田 淳治	榎本 崇宏	尾澤 勉
〃	久保田周治	大田 豊栄	梶 明夫
〃	栗山 繁	太田 正哉	菅 隆志
〃	近藤 和弘	大淵 康成	菊島 浩二
〃	佐藤 健一	金井 浩	北村 敏明
〃	佐藤 茂雄	上武 信夫	小久保 優
〃	佐藤 誠	川本 一彦	小柴 正則
〃	重田 和弘	栗山 繁	小林 博文
〃	白井 宏	桑田 秀典	榎原久二男
〃	白木 善尚	小鹿 哲	佐々木宣介
〃	高橋 広基	佐藤 健一	佐藤 栄一
〃	高橋 琢二	白川 英規	島本 隆
〃	竹部 秀洋	杉村 立夫	菅沼 拓夫
〃	田中 賢	武田 幸子	瀬濤 喜信
〃	常田 明夫	武山 真弓	津田 裕之
〃	出口 博之	田村 裕	中尾 剛
〃	中川 健治	塚田 章	中川 健治
〃	中川 真也	辻 伸二	中川 範
〃	中島 康雄	長嶋 祐二	西田 泰伸
〃	中城 智之	中谷 祐介	林 崇文
〃	仲村 泰明	波平 宜敬	原 肇
〃	西 仁司	野口 啓介	福迫 武
〃	野口 一博	野矢 厚	福村 好美
〃	福村 直博	橋場 寛之	藤田 聡
〃	藤田 輝雄	林田 行雄	舟生日出男
〃	前田 賢一	張山 昌論	増山 繁
〃	松居 真一	福村 直博	松下 雅仁
〃	松山 光司	藤島 実	松田 弘成
〃	三島 瑛人	堀田 英一	松永 昭一
〃	宮尾 淳一	水本 哲弥	松山 光司
〃	宮野 信治	宮崎 守泰	美濃 導彦
〃	宮原 末治	柳澤 政生	武藤 聡
〃	村島 定行	山口 雅史	村瀬 洋
〃	安井 寛治	山本 学	守屋 宣
〃	矢野 健剛	横矢 直和	安家 武
〃	山口 雅史	若林 秀昭	山本 真行
〃	渡邊 敏明	綿谷 信義	渡辺 壮一